



赤目・不動滝

耳をすましてごらん
 ながれが大袈裟に呼び寄せる
 せかさされたような気分になり
 河原のぐらつく石を踏み
 ながれのふちまでやって来た
 鮮やかな溪谷の緑
 青く滑らかなながれ
 空気を荒々しく吸い込む
 緑の匂い しぶきの匂い
 そして 山の匂い
 自然が五感を心地よく刺激し
 ながれの音が優しく身体を包む
 水のうまさ冷たさのよるこび
 腹ばいになり
 顔ごと水につけてみる
 顔じゅうを水だらけにして
 起き上がるときの満足の笑顔



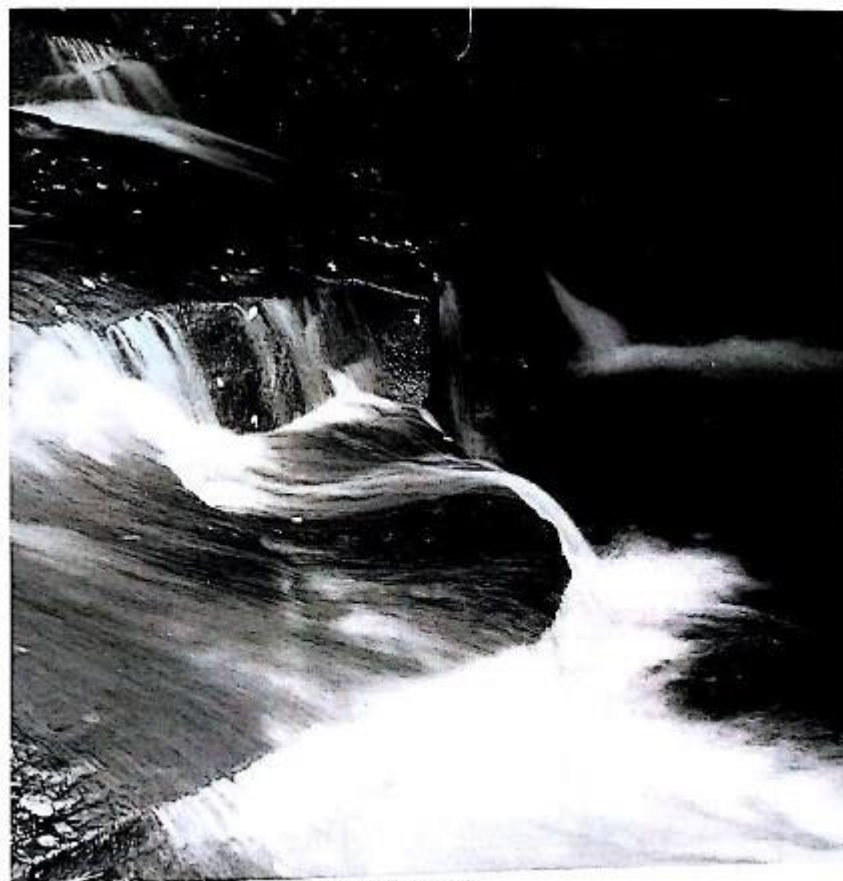
赤目・荷担滝

Photo essay

ながれ

石

題字 中田 蘭 石
 撮影 由井 永 収
 文 松 永 恵 一



生まれたばかりの清流が歓声をあげて駆けていく



ネジバナ

季節の



五月雨とサギ



発晴の滝 (信楽町)

実景

撮影 武市通治

初夏



ウツボグサ



ツツジ



こもれび (鈴鹿・鎌ヶ岳)

伊藤 勤二



テントの朝 (鈴鹿・鎌ヶ岳)

伊藤 勤二



シャクナゲ (鈴鹿・鎌ヶ岳)

伊藤 勤二



水光る (鈴鹿・鎌ヶ岳)

伊藤 勤二

●目次

表紙：松田敏男「百聞平より塩見・荒川方面」(南アルプス)

●作者プロフィール●1949年、京都府生まれ、京都府立京都大学卒。1987年より山岳探検、登山道の調査多岐に亘る。南アルプス山岳会、東京ギョウラー会、山岳山岳会、京都府山岳会、京都府山岳会、一等三角点調査員、南アルプスの会会員

別冊 関西の山
新伴作
94年5・6月初版 16号

目次	著者	頁数
●グラフィック	ながれ	4
●随想(山のふし)	季節の美泉(初夏)	2
●青い山脈は「向うの山」		11
●5000峰の上と下		11
●記 自然林の友ヶ島		13
●平家流	多摩 雪雄	13
●夜叉ヶ池と三周ヶ池	高橋 梁	13
●(通称)日本霊山修行14 鳳凰三山	柴垣 貞夫	16
●奈良宮	内田 孝一	19
●池木屋山より明神平・伊勢辻山縦走	酒井 賢治	22
●蜂蝶ヶ岳・西方ヶ岳	松田 敏男	25
●熊野古道を歩く―熊野三山への道―	児嶋 弘幸	30
●熊野本宮大社から高野坂		35
●熊野速玉大社から高野坂		38
●大門坂から大雲取越え		42
●小和瀬から小雲取越え		44
●近世の伊勢街道ハイイク		46
●伊勢街道(あを越え道)―山町から柳原温泉口―	中村 敏文	48
●文学歴史探訪ハイイク 紀見時から金剛山へ	松永 恵一	50
●コース	松永 恵一	55
●ガイド	山形 歳之	58
●① 登山から安土城跡	岩野 明	60
●② 寄り谷源流尾根縦走	須藤 潤	62
●③ 書き山から峰相山		65
●アウトドア・ライフ入門 ①「アク抜き法」	二名 良朗	28
●野の花読歌(3)	市川正次朗	34
●たのしい山歩き・尾瀬縦考(心いために)	松下 満	43
●山岳夜話(第3回再考)(二)	小泉 哲純	54
●沿線ハイキングガイド		68
●せせらぎ		71
●サービスマネージメント		78
	編集後記・広告案内	80

この度、新ハイキング社から「日本300名山」が発刊されました。東日本編と西日本編の分冊(各150名山)となっております。深田久弥氏の「日本百名山」はよく知られた名書で、読者の中にはこれに挑戦中、あるいは既に完歩された方もおられることと想います。山歩きを始めた方もおられることと想います。またその目的や方法も様々ですが、同じ山に登るのであれば「名山」と言われるようなすばらしい山頂に立ちたいものです。アプローチなど、山の歴史や背景にもすばらしいものがあると思えます。

「日本300名山」は日本山岳会発行の「山日記」編集委員会のメンバーによって1997年(昭和53年)に決定されたもので、1990年(平成2年)までに10名が完歩し、そのうちの6名が新ハイキングの会員です。選定以前からいくつかの頂を踏んでおられたにしても、わずか10年余で300名山を登られたことには敬意を表したくなります。私もこのガイドブックを参考に、300名山は無理でも、その中から「関西の山」だけでも完全登してみたい心境になりました。

新ハイキング関西(代表村田 智俊

自然を歩く仲間です。

OD BOXオリジナルNEWブランド

wildpeak & wildoor

数々のフィールド体験をもとにOD BOXスタッフとアドバイザーの意見をミックスして完成したザック&バックです。



Wildpeak
アルピニストバック38
¥14,500



Wildpeak
アルピニストバック40
¥19,500



Wildoor
オーバーオール618
¥7,000



Wildoor
オーバーオール32
¥13,500



Wildoor
オーバーオールM25
¥9,000

※この他、店内には登山グッズ・ウェアがフルラインアップ/各種の商品も好評です。

ご来店の際は、新ハイキングクラブ・メンバーズカードをご提示の方には、OD BOXメンバーズ価格でご提供。

遊	衣	自然で暮らす。
登	食	
CAMP	住	

OD BOX

アウトドアライフのトータルショップ

OD BOXのコンセプトは「自然と遊ぶ素直な生活」。自分の好きなことで自然とふれあう。「登山」の楽しさを追って、もっと自然と仲良くしたい。OD BOXはそんなハートを待つ、一年中アウトドアのお店です。

通に問わずもお求めいただけます。お気軽にお問い合せください。
(06-267-9511) FAX:06-267-9511

フロアが変更してさらに見やすくなりました。

- 4F サイクル
- 3F テイルクラフ 登山靴 カラダケア
- 2F アウトドアウェア カヌー
- 1F テニス・テニスウェア ランニング
- B1 ダイビング



OD BOX 大阪店
〒542 大阪府中央区西心斎橋2-10-24
TEL:06(212)9066
定休日/祝日水曜日
営業時間 10:30-19:00
日・祝日10:30-17:00



青い山脈は「向うの山」

中家 弘治

私のオフィスは豊平にあるのですが、その四階の大きな窓からは正面に六甲連山の全容をいつも見ることが出来ます。

六甲連山は、夏神岡の都市圏にきわめて近く、軽快に山歩きを楽しめ、その明るい山容とコースの多様性からくる醍醐味は語り尽くせないものがあります。

私も山に親しんで40年程になりますが、いまだに六甲山系を楽しんで歩いています。

気分が思い立ってその日に登るコースや、綿密な計画を立てて慎重を期するコースなど、初心者から熟練者まで自由に楽しめます。面白い山系だと思います。

六甲山系は、ほとんどの地点で海や山影が望め、さわめて晴れたら六甲の瀬谷山や葛葉山あたり

は山が深く入り込んでおり、何處登ってもスリル満点です。ダイヤモンドポイントからの眺めは、行くたびに違った一帯の絵を見るようで、いつも新鮮な感動を与えてくれます。

西山谷は、14基にも及ぶ滝が続き、そのハードさは登り終えるまで緊張の連続であったことを思い出します。

六甲山系は、いくつもの山が連なる山塊で、全体としては孤立遊山であるといわれます。

ちなみに、六甲山の山名の由来を調べてみたところ、「なにわ」から見て「向うの山に見える山」で「向う山」と呼ばれ、これが「六甲山」と手が変わり、後世「六甲山」になったそうです。

他にもいろいろなお話があり、まことに興味深いものがあります。山でだけ古くから親しまれた山であったことがうかがえます。古昔には、「大ぶかくものぶりたる山あり、人に尋ねれば武庫の山と申す」等の記述もあり、阪神間に

は「武庫」という地名があることからして、「武庫の山」と呼ばれた時代もあったようです。六甲山の山名もさることながら、山容を形成するいくつもの山やコースにも、実にユニークな名称が多い。「瀬谷山」といえば知らないと思える人も多いのですが、「ゴロゴロ岳」というと、ほとんどの人がお馴染みです。

これは三角点の標高が五六五・六がであることから、ゴロ合わせでその名がついたそうです。別名「三岳」ともいうそうです。

隣接の丹生山系東端「金剛童子山」も全く同じ標高で、けっこう岩がゴロゴロしているのに何故ゴロゴロ山と言わないのでしょうか。

神戸の港から有馬へ魚を運んだという道で、「トトヤ道」と呼ばれるのがあったり、明治の頃、冬の六甲山上の天然の水を浴室で貯蔵して、夏場になると都心へその水運んだ道というので「アيسロード」前々々は道、夜道を魔除けの



随想 (山のエッセイ)



火畑を持つて歩いたという「シユラインロード」(山道)などもあります。布引溪谷から市ヶ原にゆき、茶屋から北へ尾根を越えた山原から上流を「トエンテイトロス」と呼んでいます。これは、潮流を岩石に右へ左へと20回、ピョンピョンと飛び交いながら歩くことから名づけられたもので、奇夜で明るいとでも美しい渓谷です。「瀬谷道」から分岐する「シェール道」というのがありますが、これはなんのことはない、昔ドイツ人のシェールという人が好んで歩いた道なのでその名がついたとか。

六甲山系、もともと英国人やドイツ人によって開発されたので、随分機文字の山名やコース名が多いようです。アゴニー坂やノースロード・ロックガーデン・ピーナスアトワッジ・サンライズロード等々。山は自ら語ることなく、訪れる人々によって名づけられ、そして語り伝えられ、それが由来となることをしめしめと感じさせられます。

走路標は56、南北の幅は8、で、最高峰1等三角点の標高は931・3だけしかありません。江戸時代は丸坊主の荒山だったそうですが、今は多角的に楽しめるコンパクトで素晴らしい山です。滝とお寺と山登り、これは私のうたい文句なのですが、六甲山系は、それをいろいろな形にかえて、そして愛節をこえて、アウトドアの素晴らしさを満喫させてくれています。

500mの上と下

内田 嘉弘

私の知っている山仲間達の中には、標高を500mの高さで切っておおまかにそれ以上の標高の山を山登りの対象と決めている人が多いようです。考え方は悪くはありません。山は低くなればなるほど登り甲斐がなくなります。つまり登山時間が短くなるから頼り



随想 (山のエッセイ)

なくなるのでしょうか。
しかし、5000m以上の山でも登り方によっては、充分楽しめる。私は最近、低山歩きの人達と登る機会が増えてきました。地形図から山を見つけたして登っておられ、また山から山へと踏み跡程度の道を結ぶ登り方をして楽しんでおられます。ガイドブックのない山がほとんどなので、地形図をしつかり読みとって目的の山へ登られます。
その人達と丹波の山々で5000mを切る山に登りますと、山頂に「〇〇山」「〇〇山」と書かれた札がほとんどないことに気づきました。よく知られた山の頂上にあるこれらの札は、他の人達に誇示しているようで嫌です。それがハリガネで幹にくくりつけてあったり、クギで打ちつけられているのを見ると、木が気の毒でなりません。しかし、5000mを切る登山になると、山頂のそれは少なくなるようです。登山の対象から外されている山が多いからだと思います。

また、5000mを切る山でも山をよく眺めると、ルートによっては、5000m以上の山より登山が楽しめる山がたくさんあります。最近登った5000mを切る山で印象に残ったのは、丹波町の尖山(1666m)、名前の通り尖っています。山頂に三角点がないので、三角点マニアも訪れない様な山頂です。この山は竹野小学校の裏から登ります。その小学校の児童歌で、
どんがり山に ひびくほど
元氣に歌をうたおうよ
緑の山に閉まれて
ぐんぐん大きく はばたこう
と歌われています。
その他にも別所町の三角塔(458・3m)は、はっきりした山頂から登り、後日天狗岩から別のルート見つけて登った時は山登りの充実感がありません。
また、三和町の上殿(432・9m)は、緩部側から田野町経由で入山、屋根通しに登り、山頂のサ

サユリの標の三角点がとても印象的でした。福知山の丹波大文字と呼ばれている福知山(406・4m)は登山道が長安寺から整備されているので、家族連れやハイカーに人気があります。しかし、この山も大門から登ると、今は利用されていない道で、笹が倒れかかっている道で、踏み跡程度の道でした。山頂直下の岩陰に行きさんが絶つてあり、それを見た時、何か得をしたような気分になりました。昔は信仰の山で、行者さん達がよく登られたルートのように思いました。このように5000mを切る山でも、ルートを探ることによって充実した山登りが楽しめます。



明治のノスタルジー

天然林の友ヶ島

多摩 雪雄

紀北

洞ノ奥山展望公園



淡島神社の雑流し
淡島神社の祭神は、医薬の祖神、少彦名命と申す。女性の守り神であり、2月8日の針祭(針供養)にもまつて全国的に有名なのが、離魂しの神神である。
神功皇后が、人民の穢れや災いを払うために、人形を作り、身代わりとして流したのが始まりと、されている3月3日は、二艘の白木の舟に、全国から奉納された雛や人形を漂わせて海に流す。

この淡島神社は、神功皇后の孫の仁徳天皇が、友ヶ島から、この加太の地に移された御社である。と、いう。(神話上の神功皇后は、実在の可能性が高い、15代、神武天皇とその子16代、垂仁天皇とのつながりは、古代史研究家

の領域である。
南海部鉄加太線の終極加太から、堤川に沿って西に約20km、旅館街を抜いた海沿いに立つ、真つ赤な大鳥居から、両側に並ぶ土産物店を抜けると、朱塗りの油殿の回廊の上下に、きつしりと人形が並び、瀬戸物や木彫りの十二支や、その他数多くの動物人形が分類されて境内を埋めており、平日なのに、大勢の人が賑わっているのは異様である。

友ヶ島の概要
新造の友ヶ島丸は、無人の地ノ島の荒々しい断面を見ながら、中瀬戸を抜けて、沖ノ島の北側を走るように進むこと僅か25分、野原津に着いた。

この季節、最終列車六便は16時25分、沖ノ島に着く。出迎えるダットラに旗を掲げると、第四砲台跡へゆつくり登ってゆく。
元将校宿舎の裏に、分隊舎に改められた兵舎。地下には弾薬庫が、いずれも煙草作りで、百五十年の歳月に、びくともせず耐えている。
日露戦争を予想して、明治期に構築された砲台は、西端の灯台の北と南に第一、第二、

そして、海ノ島展覧会台東側に、隊本部として最大の第二、虎島に第五とあり、渡路島の由良家露臺帯に編入されて、昭和20年8月の終戦まで、一般人が入島することは出来なかった。

昭和24年3月、加太隊が島より買い取り、昭和30年7月、和歌山市に合併して、現在、市の所有であり、原則として島に居住すること



は出来ない。
四軒の宿泊建設と売店、その他の建物もすべて元の神社宿舎であり、経営者は市より建物を借用している。宿泊者のある時だけ、島に泊まるのが許され、その他の日は、自宅のある加太から通わなければならない。
桧橋には案内センターがあり、市の職員が管理していて、宿泊の手配もしてくれる。我々が離島した4月7日は曇天で、渡島神社の宮司と奥女が、大勢の世話人や信者を伴って、第一便で来島し、海ノ島保安所からも将校が、巡視艇で来島していた。
桧橋から西へ徒歩行つたところの、山上の神社の祭神は天照大神である。

天然林と明治の砲台

明治18年12月に選定。要港となつた同35年11月に点名「友ヶ島」一等三角点を埋設した。昭和46年和歌山国体を機に造成されて、海ノ島山展覧会大園となり、芝生の中央宮所に11号高の大石を構築し、昭和60年7月、その中央に遷移更新して、119・90以上の1等三角点となつた、第四砲台跡である。
欠落のない真っ白な美しい花崗の礫石は、18・5センチとやや大きく、四角の保護石に守られて、僅かに頭部を覗かせていた。礫北は

340度。一段下の広場には、波形のパーゴラが向き合い、大股湾の西端には、渡路島の津名丘陵が低く連なっている。

キャンプ場の孝助松から、ひと登りで、白亜の灯台に立つ。

明治5年に、日本で八番目に造られた洋風灯台で、第二砲台の弾薬庫を燃料庫として、現在も使用している。

この丘上から、紀淡海峡を隔てて、すぐ眼



灯台裏手から遠眺羽山を望む

前に遠眺羽山が太く連なっている。
ヒトモトスキが群生する蛇ヶ池から、池尻浜を抜けて宿舎に入ったのは、18時すぎで、約2時間の素晴らしい道程であった。
翌日、第二便で帰ることにして、北半分の標榜に出かける。野添清機橋を7時10分に発つ。案内所でも入した島内図を片手に、太松の根元に展示されている2つの要薬庫跡を見る。桧橋前の、その小公園には、ホロホロ鳥の音がそのそしていたり、鹿も放し飼ひされていた。昨日の第三歌音跡では、孔雀も現れた。

北垂水から南垂水に横切る台地は、昭和55年11月、大嶋山と玉徳寺等にはと後継者にたり、友ヶ島不動明王として、此処に物置されたのは、後小角が寛政二十八宿修験道の、第一の行場として開いた地故である。

2万5千地帯には破綻で示されている島内道路のすべては、大型トラックも通行できる旧軍用道路で、垂懸帯の樹林帯を伐り開いたので、その吹日の大肌を伝って、穏やかな陽光が漏れてくる。

それら476種類の樹木の中に、5千匹のリスと、50頭の花鹿と雉子、その他の鳥類の声を聞くことが出来、ウラシマソウの群生もある。

輸入ブーツは非常に、甲低く、カントも無く、その上土踏まずのアーチが実感さるので0脚気味の日本人には合いくいものです。使いざかりか、時にヒトリ、腰のトラブルの原因にもなります。
アンドウなら必ず安心/
計勢の皮はヨーロッパガルー皮を使用していますので、防水性、耐久性、保力も抜群、しかもうれしい軽さ。
重登山靴からウォーキングブーツまでフルラインアップ。
関西では当店のみの特典販売です。
是非一度お試し下さい。

登山靴ならアンドウです

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ |
| | | | | | |
| ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ |
| ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑪ | ⑫ |
| ⑬ | ⑭ | ⑮ | ⑯ | ⑰ | ⑱ |
- ◎①カームキスOK ¥30,000
 - △②1400 ¥30,000
 - ◎③2500G ¥39,000
 - △④90X ¥28,000
 - ◎⑤7504 ¥26,000
 - ▽⑥ホットスタッフ ¥27,000

山とスキーの
ヨジミスポーツ
〒541 大阪市天王寺区河内町4-70
TEL06(772)7231

亀ヶ崎3等三角点は、樹林の中で眺望は得られないが、右書きの古い礫石に刻印であった。
虎島の観音堂や序出窟で、後小角の行務を見つけたのだが、濃霧時で、崩れた機軸を渡る事が出来なかった。

砂岩の斜め断面に沿って下る虎島への渡渉点も、行務の脚枷切断で、荒々しい断面に直達される事が出来た。
湯崎、湯地帯植物群落地として、熱帯に分布するアツホシダやヒトモトスキ、食虫植物のタヌキモ等の相生する深蛇池に寄る。中央の道板を渡って外海へ出ると、ハマゴウの群落があり、真夏には管絃色の美しい花を咲かせる。と、いう。この付近は、渾かな砂浜で海に接する灌漑である。

この深蛇池や蛇ヶ池は、昔は入江であったのだ。と、いい、両池とも、大蛇伝説のある、しんしんとした境地であった。
第二便の出港までには間のあるり時50分には、桧橋に戻つて来た。平成4年4月歩く

ハコースタイム(路(文中を参照))

(地形図) 2万5千川加太

(問い合わせ) 友ヶ島案内センター

0734(59) 0314

平家岳

高雄 潔

越美

ゆつたりと谷間を走る急激な車に揺られていると、早期に家を出たせいにかそのまま眠ってしまおうと、小南にけぶる福井県の山並みを車窓から眺めながら、時々頭を上げ、どこかに背窓が見えないかと窓の切れ目を探していたら、遂に流石岳が霞んで見えてきた。もう大野市に入ったようだ。

再び九頭竜川の両岸に山が迫ってくる。電車はトンネルをぬけ狭い谷間に沿って緩くように走る。終着の九頭竜湖駅に降り立ったのは10時28分。丸太を組んだきれいな駅舎に入る。雨は降っているが、山に張りついた雲が少しずつ斜面に沿って昇り始めている。天気は回復に向かっていくようである。

国土地理院20万分の1の地形図「岐阜」



平家岳村近地図

な林道歩きもけっこう早く時間が経つ。

40分ほど歩いたところで、林道が支谷の右側に延びていた。10分ばかりその林道を登ってみると、工事中で行き止まりであった。

再び面谷川の左岸に戻り登っていくと、道は橋を渡り右岸に出る。対岸には石垣だけが幾段も残り、荒涼とした山肌に見える。ここは人の住んでいない跡も石垣を残して自然に戻りつつあるが、鉱山跡にはいままなお草木も生えていない。少し上流に墓地があった。墓地が残っている所を見ると、この鉱山に働いていた人達の墓代にもわたっていたのだらう。

小さい沢を渡り水量も少なくなってきた頃、少し広くなった場所に出た。ここが林道終点のようで、山道の入り口の足元に平家岳

と書いた道標がぼつんと立っていた。

面谷川を右伝いに再び左岸に渡ると、山道の登りになる。以前は橋があったようだが今は見当たらない。小さいが比較的急な支尾根に取りつく。左右の谷筋に雪が残っているのが見える。1時間程の登りで送電線の走る尾根に出た。

道は閉塞で歩きやすい。雨は小降りになってきたが、ガスのため視界が利かないので、楢の葉を吹き抜ける風の音に耳を傾けながら黙々とゆく。標根の北面に入ると所々雪が出てきたのでスパッツを脱げる。

頭上に幾分か濃い霧が濃いガスの中に現れた。何んだらうかと思っていたが、送電線の一部が濃いガスの中で消えたり見えたりしていたのだ。今日は久しぶりに河物を担いで歩

岳の登山口にやってきました。

九頭竜湖駅から岐阜県の美濃白鳥駅までは季節バスが運行している。11時25分発まで時間があるので、駅前のベンチで早めに昼食のおにぎりを食べる。

今の時期、この辺りに来る人はまた少ないようだ。バスの乗客は4人で登山客は私の他にはいない。美濃白鳥道を少し走ると藪ガムの崖に出る。ダムに沿ってしばらく走り、九頭竜ダムのえん堤と同じ高さまで登ると、右側至急一杯に湖風が広がってきた。湖をひとまたみする褐色の大きな吊り橋と幾本かの桜の木が湖岸に見えたところ、白鳥湖入り口に着いた。運転手が次のバスは午後2時までこないよと声をかけてくれる。札を言ってお金を降る。九頭竜湖は思っていたより大きなダム湖であった。

絶ヶ瀬橋を渡り右に、湖岸に沿った道を面谷川に向かって歩く。雨の中ではあるが歩きやすく元気が出てきた。道路の両脇にはフキノトウがのびている。湖面に突き出た尾根と谷を2度曲ると面谷川に架かる橋が見えた。橋を渡るとすぐ右手が面谷林道の入り口になり、九頭竜湖を離れ上流に向かう。

頭の中に描いていた地形と、目の前の景観を比べながらいろいろ想像して歩くと、単調

いたせいか霧が稀い。12時30分頃のところにある送電線鉄柱下に、雪もなくテントの張れそうな場所が見つかったので今夜の宿場所にした。

テントを張り終えた頃から少し風が出てきて、山にかかっているガスも濃度がまたらになつてきた。

明日は天気が少しでも回復することを期待して、夕食の支度をする。寝袋に足を入れると心地よい暖気がおそってきて、すぐに寝てしまった。

5月1日、外はまだガスのため視界がよくないが、雨は降っていないので先に進めよう。ラジオの今日の天気予報は一時回復するが再び崩れると報じている。よりあえず頂上まで登り、下りは岐阜の方に出るか、元の道を戻るか決めることにして出発する。

尾根には送電線が幾つも残っていて冬の豪雪を思わせるが、その分歩きやすい。大きな切り株が幾箇所の中に幾つもある広い尾根上の登りになる。いつか伐採されたのだろうか、以前は樹齢何百年以上の老木の生い茂る原野であったようだが、いまではそんな老木に出会えないのが残念だ。



ピーク1420より見た平家岳

登りになってきた。勝手なものでがせむ元気が出て足も軽くなる。

1420のピークを右から回り込み、送電線の鉄柱に出ると、日の谷の源流の向こう側に、世に渡られたこんもりとした平家岳(1442m)の頂が見えてきた。

ピークの頂面に出ると、1420より登る細い踏み跡がある。雪が消え急道が現れていた。送電線下の道は、美濃平家岳に続く奥境の吊り尾根に入るため、今まで歩いてきた尾根上のルートからはずれ1410のピークの末側下部を登り進む。一方、平家岳へはここから分かれて尾根通しに登る。赤石に従って戦雲の上を急登すると1410のピークに出る。

平家岳が目の前に主稜線から少し西の位置に迫ってくる。日の谷源流の鞍部までいったん下り、登り直し、コブを一つ越えると、畑笹と背の低い灌木の間から一気に奥境が開けた。荒岩が、そして少し離れたその右には、経ヶ岳から赤死山を経て別山に至る白い尾根が雲海の中から少し姿を現してきた。いままで白山にかかっていた雲も動き、真っ白い山頂に陽光が反射して輝いていた。

綿のような雲から突き出た幾つもの峰々は、海に浮かんだ島のように見え、時雨と共に

移り変わる様子は、すばらしい眺めであった。南側の枝分方面は、濃いグレーの山並みが厚い雲の下に目の届く限り続いている。写真を取ったあたりで山の隆起をしながら、写す足りた気分まで向白山地の懐に腰を下ろす。

隣の美濃平家岳にはまだガスがかかっている。今日はこれ以上回復しそうにない。枝分側はまだ雲が低く、奥境にも鋭く山並みを白く塗りつぶす。またの機会に岐阜県側から登ってみよう。

今回は、来た道を戻ることにした。戻ると決める前、明をい眺望の尾根を白山を眺めながら気分を軽くする。帰路の林道でお土産に巻を積みながら白尾洞まで歩いた。

平成5年4月30日(5月1日返す)

〔参考タイム〕

(4月30日) 福井 9:00—九頭宮朝駅 11:25—白尾洞入口 11:45—南谷林道終点 14:00—送電線の尾根 15:00—1250の送電線鉄柱 下 15:45—デント池

(5月1日) 出発 6:35—平家岳 8:10—谷へ下る尾根分岐 10:15—南谷林道 10:45—白尾洞入口 13:50—九頭宮朝駅

〔地形図〕 2万5千—日輪・越前朝日・平家岳

新緑と花の山

夜叉ヶ池と三周ヶ岳

奥美濃

柴垣貞夫

三周ヶ岳(1292m)は、「ヤブの三周」の名で中京や関西の多くの山人に親しまれている奥美濃の名山である。今では、林道が開かれ、登山道が整備されて、昔の山人が驚かされた奥美濃の面影はないが、雲霧を浴びに酔ったという伝説を秘めて、静かなたすまいをさせる山。湖「夜叉ヶ池」と周辺を埋めるカククリの大群衆や、池から三周ヶ岳に至る峻険の道が、近年訪れる登山者が増えている。

登山ルートは、岐阜県側から、坂内川の林道をつめ、池ノ又谷を登るコースと、福井県側の広野ダムから林道に入り、倉ノ谷を登るコースの二通りがある。いずれのルートをとるにしても、交通の不便さは昔と変わらず、

交通機関が全く利用出来ないの、車に頼るしか手がない。今回は福井県側のルートをとる。マイカーでの日帰り山行とした。

6時すぎ京都を出発。名神・北陸道を経て、今庄に出る。新緑が鮮やかに山野を彩り、やわらかい影を投じて流れる日野川に沿って国道365号線を南に走る。葦台から一夜叉ヶ池の標識を目で左折する。山裾に開けた田舎を見ながら、最奥の村、広野をめけると、道は大きくカーブして、広野ダムに出る。豊富な湧き水を湛々と集めた水面に、晴れわたった青空が映り、ダムにつきまものの水底に沈んだ集落の美しい過去を感嘆させない明るいダムである。

ここから道は山間に入り、細い道が山裾に

伝説を秘めた静かな夜叉ヶ池



沿って曲がり、時々前山の頃から、目指す三周ヶ岳が三角錐のきれいな姿を見せる。舗装がきれ、馬場跡を利用して建設中のキャンプ場「奥美濃夜叉ヶ池青少年旅行村」を過ぎると、しばらくして、倉ノ谷と真ノ谷の出合いで、登山口に着く。竜神社の石鳥居の立つ広場は意外に広く、かなりの車が駐車できる。すでに京都と福井ナンバーの二台の車が駐めてある。ウイークデーにもかかわらず、仕事を

おっほりだして山歩きをしている山キチがい
るものだ、白分庭のことをアップに上げて批
評している。

地下足袋という、いつもの北山歩きのスチ
イルに足替えをして、9時30分出発する。倉
ノ谷にかかる橋を渡ると、いきなりジグザグ
の登りになる。早起きの足にはちよっとゆえ
る。倉ノ谷の本音がすいぶん下のほうになっ
て、ひと汗かくころ、急斜面の登りが終わり、
山腹をゆくユリ道にかわる。ここならしぼら
くはとでも仮定な道だ。左側は切り落とした
ような斜面で、はるか下に、倉ノ谷の遊流が
岩をかみ、白く泡立ちながら岩間を流れ、対



岸の新緑が腸をいつばいにかけて、むせかえ
るような空気を放っている。道は細いが良
く整備されていて、足元に吹くリンソウや
スミレの群落を歩しながら歩く。「夜叉ヶ
池」までならファミリーハイイクも可能な敷築
路である。

突然、思の斜し込まない谷間に低い懸崖を
見る。急斜面の沢筋を削れ落ちた雪崩が解け
ずに残っている。崖も、日本海からの寒
風が吹き荒れる落雪帯であり、冬の山は
さっと厭しいのだろう。

ひときわ大きな水音が聞こえるとき、左の方
に豊かな水脈で落下する「夜叉ヶ池」が目に入
る。そして大きな滝ではないが、せせり合
った橋間から舞舞る姿がきれいだ。遊歩へ
降りることはできない。この滝を見てしばら
くすると、倉ノ谷沿いのユリ道が終わり、ル
ートは谷から離れ「夜叉ヶ池」まで標高差4
000mの尾根の急登にかわる。

始めはジグザグ登り、尾根に出ると直登と
なる。汗がしたたり落ちる。所どころ出てく
る古い登山道は描削状のガレたかなりな急斜
面であるが、我々は歩きやすい新道をとり、
高度を稼ぐに従って、山の北面にはまた岩が
解けずに残っていたり、関西ではとくに散
つてしまったタムシバの白い花が目につく。

うになる。

長かった登りも標高1050mの池を越えら
れ、木々も低い雑木に変わり、道端にはシ
クの花弁を反りかえらせたカタクリの花が姿
を見せはじめ。大きな遊歩道を下りや下り
きみに進むと、台地状の広野に、思いがけな
い樹突で、青い水をたたえた「夜叉ヶ池」
が視界に飛びこんできた。グレーン色のブナ
林の円、芽吹きはじめたやわらかい雑木、蒸
青の白のコントラストを映した池のたたず
まいは、雨乞いのために愛娘を産神に捧げた
という伝説の暗い影は見えず、明るく輝き安
らげさせた。池の畔で、青い水が落ちる音
などを眺めて、ゆっくりと一刻を過すのも
一興だ。足元自慢がなくて三岡ヶ岳までは
よほど、という人は足跡をうかがうとよい。

三岡ヶ岳への行程は長い、昼食はもうすこ
し先で、追いつてられるように池をあとに
する。池の右岸をへつらうようにしり込み、
大きな遊歩道を横断して対岸に渡る。カタクリ
の大量の花を登りきつて、橋根に出ると、
見事な大樹が展開する。眼の前の荒々しい大
岩壁は「夜叉ヶ池」水成岩で削く、ロールクライ
ミングの対岸にはならないが、アルペン的な
風景である。急斜面の山腹には、遊歩道が薄層
にも走り、萌え始めたブナ林の新芽が若葉色

の橋を刷毛で掃き、見通かす向こうは重畳た
る奥美濃の山また山。床内川から流ノ又谷を
つめる急斜面を登ってくる3人のパーティに
エールを送る。

鞍部から右の岩尾根にかけかけられた
道は三岡ヶ岳に到着が、私達は左に折れ、目の
前のピークに向かって登る。ピークから道が
ぼろぼろと、絶壁の先端に出てしまう。急登
なので引き返し、道をこいで正しいルートに
のる。ここから左戻りに三岡ヶ岳の頂上
を登ることが出来る。しかし先はまだ遠く、
いったん下って、1200mの岩の頂上を越えな
くてはならず、その上細いヤセな岩尾根の登
事などが待っている。



三岡ヶ岳山頂にて
いかわらす可
懐なカタクリ
の花や、色鮮
やかなシヤク
ナゲの花、
時々見る珍しい
木こぼしの尾根
は険しいが絶好
で、遠くの
山々を俯瞰し

ながらの登りは、辛さが和らいでくる。雷田
には先行していた男女4人のパーティが、す
っかり登頂を諦めたのか、どっかりと腰を下
ろしてコンロを煮込んでいた。

左右推察になった岩尾根の下に出る。チム
ニ杖の岩の壁を登り、急登。下山のとき
はちよつと危険を感じる所だが、幸い右に登
き道がつけられている。急斜面を過ぎ、急
斜面を登りきると、低い崖の生える崖根接岸
の1200mのピークに出る。正面間近に迫っ
た三岡ヶ岳の雄姿。右にどっしりと長い尾根
をもつ風雲山。鼓動の白さがまぶしい。この
ピークを登って場所を作り、遅い登頂に
する。台ビールで、素晴らしい山行に挨拶。
ほてった林にしみ込むビールの味は何となく
ことなし。

登頂後、ここにリュックをずがして登頂で
頂上に向かう。鞍部の雷田まで下り、今日何
回目かの登りをくり返す。途中、京都からの
男性2人と岐阜側から登ってきたという夫婦
のパーティに出会う。いずれも山慣れた人達
ばかりで、ウィークデーにもかかわらず、カ
タクリの花と風景を求めてやって来たと言
う。

た頂上は広く、50mほどの大きなものもない。
何という広大な遊歩道だろう。尾根続きに美濃
沢丸・並ヶ峰・遠くは御前山・冠山・獅子
山・金吾山、みんなそれぞれに懸崖防も残
り、岩壁のある山容を並べている。天気
が良くて、遊歩道・大日ヶ岳・三岡方面が
かすんでよく見えなのが残念だが、それは
偶然というものの、これだけの展望が楽しめ、
花を費やられた山行にすっきり満足する。

下山は登ってきた同じ道で、倉ノ谷の駐車
場まで長い道のりだ。あまりの急登で出来ぬ。
池まで足跡に慎重に、池からは登頂の急傾を
覗いたから、縦谷の急傾を滑り下り、遊歩
道やかさを増した遊歩道の中を慎重して下る。
平成4年5月10日歩く
ハコータイム



夜叉ヶ池 (1時間30分) 駐車場
地形図 2方500m 10号

鳳凰三山

地蔵岳 じぞう	2764m
観音岳 くわんのん	2840m
薬師岳 やくし	2780m

浅野孝一

中央本線の列車に乗って、非崎から小淵沢に向かうと、左手の車窓に見えてくるのが、鳳凰三山である。山稜の右手、地蔵岳の山頂に岩峰が見える。地蔵仏といわれているものである。

松平定能編輯の「甲斐國志」は、「絶頂ニ高サ數尺ノ立テ傲アリテ遠ク望メバ人物ノ状ノ如シ州人多クハ誤テ是ヲ地蔵カ嶽ナリト云ハ非也」と記している。これは「甲斐國志」を編輯した当時、この一帯の山を鳳凰山としていたからの説明ではないかと推察してみると、説明している意味がわかってくる。

鳳凰三山とは、御氷知の通り地蔵・観音・薬師三山の総称であり、鳳凰三山の名称は近世に入ってからのものではないかと考えられ

地蔵岳（地蔵仏と雲ノ河原）



きて、鳳凰三山に登るには、三つのコースが考えられる。その一つは、山麓にある御座石鉱泉から蘇頭山を経て地蔵岳へ登るもの。二つめは、ドンドコ沢をつめて地蔵岳へ登っていくものである。前者は約7時間、後者は約8時間の行程となる。この二つのコースを利用した場合は、1日目の泊まりは鳳凰小屋となる。夜行列車のない現在では、1日目は山麓にある御座石鉱泉か背木鉱泉に泊まっていたからの登山を考えてみたい。

私が登山を試みたのは三つめのコースで、これは比較的楽に三山を歩くことが出来る。その記録を説明する。

新宿駅から夜行列車で中府駅へ。夜が明け

車側の樹林の中を、南側小屋に向かって下ってゆく。遊平から左手にある江山の山頂を往復してある。山頂一帯には、ハイマツの白い幹が横たわっており、野呂川を隔てて北岳が見え、行く手には薬師岳から中府駅への山稜が見えてくる。

南側小屋は既述のない山中の鞍部にあるが、水量豊富な水場があり、静かな一夜が約束されている。小屋の前はキャンプ指定地となっている。

2日目は御座石小屋からシラビソ林の中の登り道となる。2500mほどのピークを過ぎると森林限界だ。針葉樹は姿を消し、ハイマツ

の混じる灌木帯となる。山の斜面にタケカンバが目立ってくる。砂土が砂丘に積る。山稜一帯は白砂のザレ場となり、その先に薬師小屋がある。

「甲斐國志」は、この地帯について「……土入地蔵、観音、蔵（薬師）ノアル所アリニ云フ又薬師カ嶽ヲ成ハ坂崎カ嶽トモ呼ブ乗鞍カ嶽ヲ南二下レバ砂土、云処アリ……」と説明し、更に「……凡ソ此山都屋武里ノ間砂白クシテ海原ノ景色アリ云石、傍巖、石間、草、一々名状シ難シ又此山ノ南ニ春三日月ヨリ至リ酒ヲ清リタル者自然ニ牛ノ形ヲ作ス地アリト人々望テ鹿牛ノ稱ス……」と記してい

山と高原地図シリーズ

定価 各700円(税込)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 北アルプス総図 | 34 箱根山 |
| 2 白馬岳 | 35 朝日・山梨三山 |
| 3 富士山・箱根湖 | 36 奥山 |
| 4 妙高山 | 37 富士山・箱根湖 |
| 5 上高地・穂高岳 | 38 奥山・早池峰 |
| 6 奥秩父 | 39 八幡平と手山・奥秩父 |
| 7 御嶽山 | 40 十和田湖・所伝・奥山 |
| 8 中央・南アルプス総図 | 41 ニセコ・羊蹄山 |
| 9 木曾野 奥木岳 | 42 大雪山・十勝岳 |
| 10 甲斐駒ヶ岳 | 43 白山 |
| 11 塩尻・赤石・奥山 | 44 富士・伊吹・奥山 |
| 12 奥山・戸隠 | 45 御座石・鎌ヶ岳 |
| 13 志賀高原・花津 | 46 比良山系 |
| 14 軽井沢・奥山 | 47 京都北山1 |
| 15 西上米 妙義 | 48 京都北山2 |
| 16 美ヶ原 奥ヶ岳 | 49 京都西山 |
| 17 ハケ岳・奥山 | 50 北原の山々 |
| 18 富士 富士五湖 | 51 六甲・奥山・奥山 |
| 19 奥山 | 52 奥山・奥山 |
| 20 伊豆 | 53 奥山・奥山 |
| 21 丹波 | 54 奥山 |
| 22 奥山 奥山 | 55 奥山 |
| 23 大井川奥山 | 56 大井川 |
| 24 奥山 | 57 大井川・奥山・奥山 |
| 25 奥山 奥山 | 58 奥山・奥山 |
| 26 奥山 奥山 | 59 奥山・奥山 |
| 27 奥山 奥山 | 60 奥山・奥山 |
| 28 奥山 奥山 | 61 奥山 |
| 29 奥山 奥山 | 62 奥山 |
| 30 奥山 | 63 奥山 |
| 31 奥山 奥山 | 64 奥山 |
| 32 奥山 奥山 | 65 奥山 |
| 33 奥山 奥山 | 66 奥山 |

※昭文社の「山と高原地図」は年々増え、毎年必
須発行されます。この山行の際はなるべく最新
版をご利用ください。また、昭文社の「山と高原地図」への
お問い合わせは、昭文社編集部へお願いします。

昭文社

本社 東京都千代田区九段北4-2-11
電話03(3262)2141(代) 〒102

支社 大阪市芝川区中島6-11-23
電話06(303)5721(代) 〒532

営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・高松・立川
名古屋・金沢・京都・広島・福岡



試みこの
一帯、天上
菜穂に遊ぶ
の徳のある
所である。
ハイマツの
間を幾脚岳
に登り、更
に三山の中
では東峰
の眺望吉に
登る。岩壁
の中を進み
鳳凰小屋へ

の分岐を過ぎると、左手に野呂川をはさんで北尾を見る。それからアカカケ沢ノ頭に登り、右ハザレ場を下って霧ノ河原に出る。地味仏のオベリスクが立っている。地蔵岳である。遠くに甲斐駒や八ヶ岳が見える。ふりかえると富士山も見える。霧ノ河原からダケカンバの林の間を下って、鳳凰小屋の前に出る。相路はドンドコ沢に沿って下った。北御室小屋跡まではゆるい沢沿いの登山道も、ここを過ぎると急降下の連続となる。登山道の右手には五色ノ滝、白糸ノ滝、更に鳳凰ノ滝

南精進ノ滝があるが、下るのに楢一杯で、ろくに滝を見る間もない。

南精進ノ滝を過ぎると、坂はややゆるくなり樹林帯となる。右下に樺太工場の車道が見えるあたりから、登山道は再び左上へ大きな急登となる。伐採地の草場を過ぎ、下りとくると青木鉱泉の下に出る。

青木鉱泉からバスの運行はないので、玉崎からタクシーを呼ぶ。待っている間に、鉱泉につかり、2日間の汗を流した。

この下山路はすこいの一言につきる。足のない方は、鳳凰小屋より高頭山荘由で御座石鉱泉に下山することをおすすめする。

(平成3年11月19日〜20日歩く)

△参考タイム▽

- ①一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ②一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ③一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ④一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ⑤一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ⑥一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ⑦一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ⑧一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ⑨一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ⑩一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ⑪一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ⑫一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ⑬一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ⑭一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ⑮一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ⑯一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ⑰一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ⑱一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ⑲一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ⑳一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ㉑一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ㉒一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ㉓一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ㉔一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ㉕一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ㉖一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ㉗一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ㉘一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ㉙一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ㉚一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ㉛一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ㉜一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ㉝一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ㉞一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ㉟一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ㊱一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ㊲一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ㊳一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ㊴一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ㊵一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ㊶一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ㊷一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ㊸一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ㊹一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15
- ㊺一日目 夜叉神峠入口7:00〜夜叉神峠8:15

野外活動に伴う危険と対策

坂井 久光

我が国にいる野生動物で恐いものは、現存では、熊と狼である。狼の生存は今では確認できない。猛りいるが、夜行性のため昼間には滅多に出遇わない。

熊(つきのわ熊)は本州、四国に住む雑食性の動物で、ブナ、栗、榎の実などを好む。熊、杉の皮なども食べるので、林業家に嫌われているが、これは、ブナ林等を伐採して杉を植林したため、熊は仕方なく代用食としているのだろう。熊はおとなしく、むこうから襲ってくることは滅多にない。私は一途岡、山で見かけたが襲われたことは一度もない。襲うのは、出合い頭に襲って先制攻撃するようである。鈴や笛などの音を嫌うので、単独行の時は特に注意して、鳴らしながらの歩行が肝要である。

熊は性質狂暴で、空腹時には人を襲うこともあり、北海道では毎年、数人が犠牲となっている。生息地が限られているので、その地域では、笛やラッパを鳴らして、時には爆竹を鳴らし追い払うことが肝要だ。

熊と対決した愛犬テツ

奈良岳

ゴールデンウィークは奈良岳に登ることを目標にしていた。もし前半天候が悪ければ、後半にやらそうと考えていたが、前半の4月22日に奈良岳に登ることができたため、連休後半が空いてしまった。意気込み、奈良岳(1644m)から大笠山(1822m)へ行くべく計画を立てた。そして、アプローチの奥沢林道の様子を河内村で確認し、そして、「最初の橋までは入れますが、それから先は富留と落石が入れません」との答えだったが、ともかく出かけた。

われは通り車は高尾谷の出会いの橋までしか入れなかった。岩屋釣りや山菜採りの車が数台止まっていた。「山の上は、昨日の雪で真っ白ですよ」と地元の人や熊子を知らせてくれる。2〜3日前の大笠山では「マイナス20度の寒気団が来ていて、日本海側は荒れるでしょう」と言っていたので雪は予想していた。また、ジープで入っておられた方からは、「先週、高尾山に入った時、親子連れのおに会いしましたよ……」と脅かされたが、今回は愛犬テツも一緒だから、その点は多少心強い。歩き出すと雨。雨合羽を着ての喜りになったがすぐ止んだ。富留の跡の雪塊や大きな落石がある林道は、

内田 嘉弘

白峰

愛犬テツ (後方は高尾山)



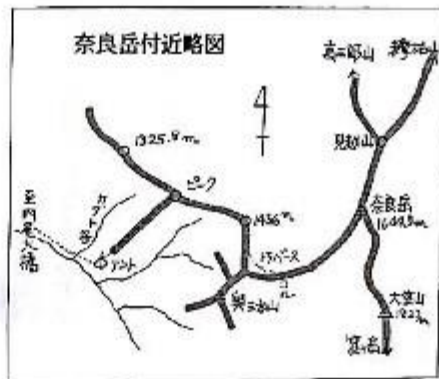
どんな車ももう入れない。谷が狭まったヒノキ木ワケという所に道標が記されている。昭和38年の豪雪で埋められたと聞く。ここから左に回り込んで高尾谷を過ぎる道から雪道になる。ワキ谷の出会いでは、林道は雪で埋まっていた。そこを慎重にトラバース、振り返るとテツは平気でついて来ていた。コヤン谷の出会いでは林道の下のスノーブリッジを渡



奈良岳の山頂にて

と吹入、駆け出した。テントから覗くと日駒
かりの雪面に黒いものが動いている。熊だ。
テツの二倍ぐらゐはある。テツは熊と3〜4
メートルの距離で盛んに吠えている。家内はテント
の中でナベを叩きだした。どのぐらゐテツは
熊と対峙していたか分からないが、その熊は
山手へのそのそと逃げて行った。テツもなかな
かなやるわいと、この時ほど頻りに吠えた
ことはない。

翌朝、テツはテントの側にいなかった。捜



翌朝、朝日を浴びた対岸の白い山肌が眩し
空には月が輝き、北斗七星がきらめいてい
たが、天気予報が「午前中雨、午後から曇
り一時雨」と言っていたので、明朝は4時
き、6時出発とした。

すとは3月の高尾の雪崩から降りられないでい
る。エサを見せてもこちらに跳んで来ない。
熊を追ったのはいいのだが、夜の冷え込
みで雪面が氷になって、足が滑るから熊がっ
て降りられなくなっていたのだ。手を負して
降りしやる。

今日は下山日、奥池では大きな雪崩が伏
いていた。コゴミ、アザミ、タラの芽を少し
摘みながら半所へ戻ったが、まだ10時だっ
た。もう一言登ろうと本を山中岩場に向け、
シャクナゲの吹く富士雪ヶ岳(9411.5m)に
登り帰宅した。

なお、奈良岳は金沢市の最奥部であり、奈
良岳の山名の由来は「ナラ、ナル、ナロは山
中で少し平らなところ」から来ているという。
そう言えば、この辺りの山々の中で一番個性
のない、ナルい山は奈良岳であることは間違
いない。平成3年5月3日(日)〜5日(歩)

▲コースタイム▼
西尾谷止合(1時間) 奥池(1時間30分) 登
山口(4時間) 145.6km(17) (2時間20
分) 奈良岳(往復コース)
▲地形図▼
2万5千メートル縮尺・西赤尾・小笠原・吉原
5万1千縮尺

かった。登山口からブナ板の急登が始まる。
名栗のごとくブナ林の登りで、その中にクマ
カンバの太木もあった。ラッセルは最初左
程登ったのが徐々に深くなって夏道が分か
らなくなってしまうが、気にせず中三方
山から合流して来るピークを目指す。徐々に
近づくとブナシを滑り、そのピークに抜け
出した。登山口から2時間かかる。高尾山か
ら白尾山・奈良岳・奥三方山の峰々が見えだ
した。ここからは複雑通しのラッセルでも、
う直登の必要はなくなったが、腰頃ぐら
いまで登るとこも出てきた。少し下ると急登
ここで夏道と合流する。後ほどそれとはつき
り分かる急登を、頑張って145.6mのピー
クに着いたが、時計の針はすでに10時を回り
かけていた。大笠山は見えていたが、このペ
ースでは届きそうにないので、奈良岳を往復
するだけの計画に変更させるを諦めた。

145.6mのピークを下ると奈良岳と奥三方
山の分岐点への登りとなるが、それを避けて
奈良岳と奥三方山の最低部へとトラバ
ス、雪が少し厚くなって来た。いや、そうで
はなく足が疲れてきて重く感じているのかも
しれない。うまく登き終えてコルに着く。南
の大笠山の頂上には雪がかり始めていた
が、奈良岳頂上まで登り途中で1500mを残す

のみだから慌てなかった。夏道の後登をラッ
セルして再び抜けると、丸いおむすびのよう
な口が頂上が待っていた。12時半だった。6
時間半ものラッセルであったが、テツもよく
頑張ったものだ。

目の前の見越山から高尾山、北に赤尾木
吉山がはつきりと見えるのみで、先程まで見
えていた初穂山と雪ヶ岳山は雲の中、隣の
大笠山は山腹から靄色の雲で覆われてい
た。30分ほど頂上について、下りはラッセルの
跡を進むだけで、3時間登りで下山した。
その日の夜半過ぎ、テツが突然
「ワンワンワンワン」

日本 百名山に登ろう!

- 屋久島・宮之浦岳登山
4月29日(金)〜5月1日(日) 参加費88,000円
ツアーリーダー同行(食事:朝・昼・夕食付)
 - 利尻岳・礼文岳・樽前山
①6/28発 ②7/10発 ③7/31発 4日間
大人数①142,000円 ②153,000円 ③158,000円
ツアーリーダー同行(食事:朝・昼・夕食付)
 - 大雪山縦走と栗山溪
①7/14発 ②8/4発 ③9/15発 4日間
大人数①143,000円 ②153,000円 ③158,000円
ツアーリーダー同行(食事:朝・昼・夕食付)
 - 屋久島・宮之浦岳登山と網文杉
5月2日(日)〜5日(水) 参加費98,000円
ツアーリーダー同行(食事:朝・昼・夕食付)
- ※他にもたくさんコースがあります。資料をご請求下さい。(無料)

アミューズトラベル株式会社
国内旅行業務第121号 一般社団法人登録第1912号
福岡市博多区博多駅前2-5-28
博多駅前ビル10F 〒812
☎(092)414-5566
FAX(092)414-8543

鈴鹿 鈴鹿の山歩き
豊かな森林と渓谷の続く静かな山域
かつての人里(農村)への峠道を通る内車
車道と写真と地図で案内する心の旅
辻 辻 定価1800円(税別)

山人舎 8527-01 滋賀県愛知郡東町下里5
00749 451 2458 03 358-6701
近江/滋賀 03 358-6701 1600円(税別)
3ヶ月分 03 358-6701 1400円(税別)

野外塾

●アク抜き法

関西アウトドアースクール

校長 二名良日

葉面入、木の芽吹く新緑の候、自然グリーンパワーの発微ともいえる「山菜」の季節となりました。

山菜と野菜の関係は、自然の山野に生えていた食べられる野草を、平地の住居そばの畑畑に移植して栽培したもので、野生のワドと栽培のワドとを比べてみれば、彩りや味や香りなど、違いがよくわかります。

天然野菜と培養野菜との差異は、また「アク」の強さの違いともいえるでしょう。

アクの正体
アクトは、①エグ味、②ニガ味、③シブ味、④スイ味、⑤カラ味、⑥キド味、⑦ヌメリ、⑧クサ味、⑨クサ味、⑩クサ味、⑪クサ味、⑫クサ味、⑬クサ味、⑭クサ味、⑮クサ味、⑯クサ味、⑰クサ味、⑱クサ味、⑲クサ味、⑳クサ味、㉑クサ味、㉒クサ味、㉓クサ味、㉔クサ味、㉕クサ味、㉖クサ味、㉗クサ味、㉘クサ味、㉙クサ味、㉚クサ味、㉛クサ味、㉜クサ味、㉝クサ味、㉞クサ味、㉟クサ味、㊱クサ味、㊲クサ味、㊳クサ味、㊴クサ味、㊵クサ味、㊶クサ味、㊷クサ味、㊸クサ味、㊹クサ味、㊺クサ味、㊻クサ味、㊼クサ味、㊽クサ味、㊾クサ味、㊿クサ味、

その成分は、無機塩(マグネシウム・カルシウム・カリウム・有機塩・配糖体・サポニン・タンニン・アルカロイド・テルペン・樹脂……など)といわれています。

さらに、エグ味(ホモゲチン酸・シユウ酸・配糖体・ペプチドの遊離体・糖類・シブ味(タンニン……)という具合に、特定されています。

なかまに、ミツバ1・20% / 0・5%、ヨモギ1・50% / 0・65%、ヨモギ1・80% / 0・67%……だといわれると、ナンバド……という気がします。

ワラビのアク抜き
全てのアクを液にしてしまおうと、香りも風味もなくなり、正に「味気なし」になってしまいますが、例えは草も身近な山菜の代表である「ワラビ」の場合、全て生の状態で多量すると、牛などがビタミン欠乏症で、起立・歩行不能となってケイレン死したり、乳頭腫瘍をおこす……といわれ、葉・根の粉末を与えたネズミの腸に腫瘍が発生した……という報告もあるようです。

でもワラビやワラビ餅は、古来より一般的に食べ続けられており、それでも大丈夫なのは、ひとえに「アク抜き」の成果です。

アクト抜き法
このように、自然の摂理を熟知した生活文化としての「アク抜き法」が数多く伝承されていますので、別巻・論評して見ます。

① 水さらしワド・ゴボウ・ヤスノイモ・ジャガイモ・レンコン・ナス・リンゴ……など切り口が褐色になるのは、ポリフェノール系物質が酸化されるためですが、水溶性のもの

ですぐに水さらすと変色が防げ、アクト抜きにもなる……というわけです。

② 湯がき「ホウレンソウ・シユンギク・コマツナ・セリ……」などを湯でるのは、細胞の半透膜を透過して、水溶性のシユウ酸などを溶出させてアクトを抜く方法です。

③ 灰汁法「ワラビ・ゼンマイ・フキ・ヨモギ・アザミ……」など、アクトが強烈な繊維が埋まっているものは、pH10に近い炭アルカリ(ワラビアザミ……)植類の灰汁で、組織をほぐしてアクト抜きを促進します。

④ 重曹・クレー・クレーミ・イワタケ……などのアクト抜きに使われる炭酸ソーダ(Na₂CO₃)のソーダ灰の重曹は、入手しやすい化学薬品です。

⑤ 焼く「ヨウパン・クリ・イモ……」などのアクト抜きには、焼くヨウパン水溶液を煮立てて使います。

⑥ 塩・タンポポ・ヨメナ・フキ……の塩で、キョウリ・サトイモ……の塩もみ、イヌガラシ……の塩づけなど、周知のアクト抜き法です。

⑦ 酢・ワド・ヤマノイモ・レンコン……などの褐色を防止し、酢水通しを行います。

⑧ 米ぬか「タケノコ・ゴボウ……」のアクト抜きに、タケノコは皮ごと湯でると、皮に還元性の亜硫酸塩が含まれており、軟化しやすい。

⑨ 赤トウガラシ「タケノコ湯で、米ぬかと入れると、エグ味をやわらげます。

⑩ サンショウの葉「赤トウガラシに同じ。

⑪ 米のとぎ汁「ケイコン・カブ・ゴボウ・タケノコ……」などを軟らかくし、旨味抽出を防ぐ。

⑫ 焼米・米と汁を煮じてクセを脱する。

⑬ メリケン粉「カリフラワー……」湯でると、澱粉のコロイド粒子吸着作用でアクトを除去。

⑭ コモギ「ワラビ・フキ……」など、頑固なアクトに対し、アクト煮出し汁で、アクトを取る。その他、蒸し・焼く・干し・燻白・豆乳・白二・送折……と様々なやり方があるようですねので、ご存知の方は、ご教示ください。

アウトドア・野外塾の二案内

アウトドアには最高のシーズンです。野外塾のフィールド版にも多勢ご参加下さい。

5月「山菜ウォッチング(野外料理)」
風景山菜の季節だ。大糸山直下、川の清流で、山菜野料理を楽しめ。

新日 5月8日(日) 信濃大決行
集合 奈良大川村川バス停 10時45分

場所 河川バス停「河川キャンプ場」大糸山直下
大糸山直下「河川バス停」

会費 3000円(交通費各自負担)
担当 ① 名取 ② 伊田 形成

6月「ヒタリマキガヤと山菜がめ体験会」
大野山中腹の相原に自生する山菜類をヒタリマキガヤで採集する。

期日 6月26日(日) 雨天決行
集合 熊野直下日生中央駅改札口 9時

場所 日生中央駅「花原」山寺「ヒタリマキガヤ」採取地(往復コース)

会費 3000円(交通費各自負担)
担当 ① 二名良日 ② 伊田 形成

申し込み・問い合わせ 3日前まで
〒5500 大阪市西区槻本町2の3の11 阿

阿部ビル1101 関西アウトドアースクール
まで 電話06(4)443-8336

○詳細要項をお送りします。



フキのアクト抜き(灰汁法)

どちらをみても山また山のロングコース

池木屋山より明神平・伊勢辻山縦走

高台

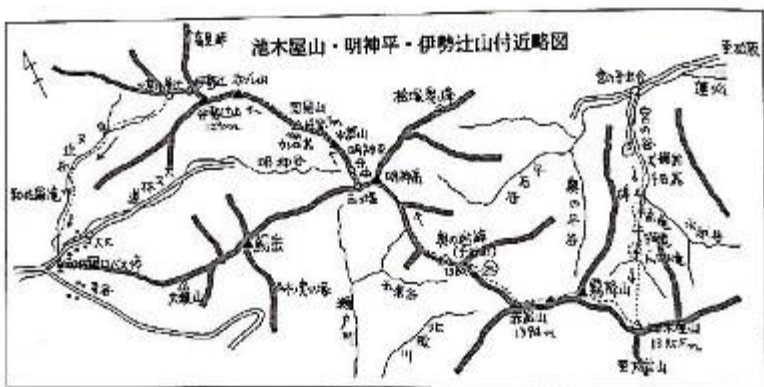
酒井賢治

秋の山行は、一定の期間に一定の山域に集中して入山することが多い。展望に魅せられ次はあの山、次はこの尾根と目にする山に次々と登りたくなるからだ。昨午の春は、藤橋より明神平縦走、高見山と北尾根縦走、小佐倉山と紅梅家、高見山より国吉山縦走など、台高山脈中北部の山々に集中したが、吉の谷から池木屋山(13995・9)に寄り伊勢辻平・伊勢辻山(1290)と縦走し、大又に下山したこのコースで、ひとまず締めくくりにした。

5月15日午前6時、長男進雄のマイカーで自宅出発。郡山より西名国道を走り、針比から橋原へ南下し、国道166号線で高見峠道を抜け、三重県側の木崎より飯谷の集落を

通り加杖坂峠に登る。峠手前から望む高見山は、いましがた大津峠付近から見たピラミッドな鋭峰から、膨大な橋長の鈍峰に変わっていった。峠から急坂を下り青田川に沿って走ると、やがて川は湖ダム支流の貯水湖となり、ダム左岸の三差路に着く。左にゆけば坂阪方面へ、池木屋山への取りつき吉の谷へは、右へ赤い辻道橋を渡りダム左岸に沿って走る。奥に入るに従い、ダムは大岩の埋まる溪谷となり、やがて吉の谷の出合いで、樫を渡って地蔵の林道を走り、8時過ぎ終点の広場に着いた。三重ナンバーの車が一台駐車していた。長男を見送り、小さな箱に登山用荷入れ、新緑の山道をゆくときすぐ分岐がある。右道標に従い左へ下り吉の谷の奇勝・大飛石の頂に

奥の光峰より見た赤岩山・千里ヶ峰・池木屋山と大倉の山々



出た。このあたりで吉の谷の岩壁は傾きが急に深まり、両岸は絶壁となって河床までは約50メートル落ち込んでいる。橋から下を覗くと、目も眩むばかりの谷底に大岩で閉まれゴルジエになった滝流が轟音をたてて流れていた。もとの分岐に戻り右の山道を取り、また分岐があり、右に高見山へ直登する山道が分かれる。左へ谷間に下り溪谷に落ちるとすぐ清流に、樫が架をかけたように両岸が狭まるワシ岩の景観を見る。この辺り吉の谷は新緑と岩壁、大岩と清流が織りなす素晴らしい溪谷美であった。ゆっくりしたいが今日の行程は長い。先を急ぐ。

三上右岸の岩壁を対岸に見て渡谷を登り上下する。危険な箇所には番号付きの鉄橋や階段がついてはいる。51と35番橋は在岸崖面の岩壁につけられた長い橋で、足下の渓流や荒々しい両岩壁を眺めての前進はスリル満点だ。やがて左から水越谷が合流、右の本流を36と38番橋で右岸へ渡ると、飯塚峠が立っている。約20年前の国体コース踏査中に、高瀬付近の上杉原に遺棄された中村卓三氏の碑だ。ここから大谷石垣を少し登ると、前面に両壁のそそり立つなか、高瀬が落着き切れて波々と落ちていく。飛び石伝いに左岸に渡り、砂まじりの高瀬をジグザクに登り、高瀬を

大きく高登く。中段から見ると高瀬は正面的な迫力で激流を落させ虹をかけていた。高瀬を両岸とすぐ左の樹間に滝道を見守る。滝の落ち口を過ぎると谷は静かな流れとなり右岸、左岸とも飛び石で渡る。右の山肌を大きくからみ、登山道からは見ええないドツサリ滝を、高瀬を、再び谷に下って五前通し、10時20分奥の二俣に到着。ここは標高約800メートル、周りを新緑の山肌がとり囲み、明るく谷が開けて基岩地帯だ。

20分間休憩し、3と2ポリタンを満タンにして出発。すぐ前の小尻根についた踏み跡をのくと、小さな谷の流れを渡り池木屋山から下る中回屋根の山肌に取りつく。少しで尿水に乗り、木の根が露出した急坂を両登し、ぐんぐん高瀬を登る。今日はデント持参で重い荷物が肩に食い込め、つらいつらだが私の気持は逆に強くなる。1時間ばかりの急登で勾配はやや緩くなり、新緑の樹間から左右の橋梁を互に見る。所どころでアカヤシオがピンクの花を見せていた。途中で中年の男性を追い抜く。松原市の人で林道終点に駐車していた車の横にまたった。やがて太いブナが林立し、上管が一面に敷きつめられたような池木屋山頂上部の明るい斜面を登りつめ、12時前山頂に着いた。



明神平と水無山・回見山

所と、また白粉の明神平とのコントラストが美しかった。水無山を過ぎると、裏面の樹間を迫って伊勢湾が銀色に輝いていた。無名の小さなピークを越し、遊歩路から少し西に外れたウシロ岳に立ち寄る。西側が大きく開け、明神谷の切れ込みを臨んで、先日歩いた駒岳を中核とする大きな尾根や遠く大峰山脈の山々が望めた。早朝の日の光は全ての山に素晴らしい立体感を与えている。岩壁下の斜面を一頭の前が駆け降りていった。6時30分回見山頂に着く。ここからの展望も素晴らしいが、最近やや流水が枯ってしまったようだ。パイナップルが群生する回見山北面を下り、樹の植林と雑木林を抜けると道は一面クマ笹となり、ゆく手に赤ソレ山と伊勢汗山が姿を見せる。又夕陽のような小さな池を過ぎ、赤ソレ山の腹をからみ、再び樹林帯を過すと松馬鈴木、小笹の澄む明るい坂道となり、7時30分伊勢汗山に着いた。真っ青な空の下、小笹におおわれたドーム状のピークで展望を楽しみなが、大休止。いま進んで来た回見山や水無山を始め、北から西にかけては高見山や室生火山群、三峰山脈の山々など、巨巒が眺めが展開する。8時ちょうど伊勢汗山出発、すぐ樹林帯に入り伊勢汗山を下り着く。まっすぐの道は、先日遊んで登った高見山への遊歩路

山々が東寄せと続いていた。岩のピークからすぐ西にある奥の迷峰の本峰を過ぎ、北尾根を下ると左に水ノ安や湯を流した龍滝。龍間に龍ヶ峰から明神岳に続く深い樹海の岩壁が間近に迫る。遊歩路は再び深い樹海の中となり、龍滝に利かないが左右に深い谷を見下ろし、飽きない縦走が続く。フナの巨木と小笹が敷きつめられたスロープを登り、16時過ぎ、笹ヶ峰を通過する。ここから明神岳西面にかけては尾根の幅が広く、ガスの時はコースを外さぬように注意が必要だ。

明神岳が近づくと、龍根の左端を縫うように登る。左手雑木越しに、遊歩川に下る谷の山肌を深く破る白雲帯を見て、16時40分明神岳に着く。10分ばかりで三ツ峰に下ると、前面が明るく開け、明神平が暖かそうな西面をいつぱいに受け、私を待たせてくれた。笹のスコープを二気に駆け下り、17時10分明神平に着く。4人の生衣がアン、を張っていた。この夜は満天の星のもと、静かに海苔の一夜を過ごした。

翌朝4時に目を覚ます。学生達は回見山まで縦走とのこと。5時頃山頂に降り立った。フライシートに雑水が張りついていたが、今日も快晴。5時30分水無山に向け明神平出発、急坂を登る。振り返ると朝の陽光を受けた湖

ここで左へ大又への下山道に入る。シシよけフェンスに沿った道をクマ笹をかき分け、ぐんぐん下り、三度小滝で尾根から離れ、やがて右の植林の山肌をジグザグに急降下。又遊歩路二俣に下り、少しで石野林道小岳に着く。ここから左に徐々に広がる又遊歩の渓流を登りながら緩やかに下る。途中木橋で左岸に渡り、大きく開けた又遊歩の滝や淵を見ながら進む。滝の流れが急になり、山道とかなり落差がつくところ、和佐龍滝の白い瀑布が樹間より見えた。

最後は大きく下って再び溪に出合い、鉄の橋を渡り、10時10分和佐龍口バス停に着いた。橋の下の清流で汗を拭き、10時50分龍見野町ゆきバスに乗る。遊歩手とはもう顔馴染みだ。平成5年5月15日16日歩く
▲コースタイム▼

①日巨 宮の谷林道終点(1時間) 水無谷 山合(1時間10分) 奥の二俣(1時間40分) 池水無山(1時間20分) 赤高山(1時間20分) 奥の岩峰(1時間10分) 明神岳(30分) 明神平(20分)

②日巨 明神平(1時間) 回見山(1時間10分) 伊勢汗山(2時間) 和佐龍口バス停(地形図)

③ 2万5千 宮川野水池・大和栢木・大豆生

房原はフナなどの喬木でほとんどなし。しかし、この静寂と雄偉さ、奥深さはさすがに高中部の盟主の名にふさわしい。20分経って松原の岳人が到着。このあたりの山に詳しい人で、いろいろ教えてもらった。

12時40分、山頂を出発し、縦走路を北に下る。少し大急降だが大海へ小舟で出帆する思いがした。樹間の低地に水の溜れた溜槽のような大窪地の跡を見る。深い樹林の中の縦走路を緩やかに上り、約30分で龍山(奥の平)に着いた。北から東面が大きく開け、香肌深谷の山と谷が走野にこぼれに広がった。宮の谷の切れ込みの向こうには野江股の頭や白鳥山・古ヶ丸山・赤岳など池水無山から東に派生する台高の山々や、遠くに三峰の山並みが波濤の如く続いていた。霧籠山から道は西に向きをかえ、立ち枯れのような木が乱立する千里ヶ峰のピークを越えると、頂上部が緑の喬木におおわれた赤高山が近づくと、左手樹林を通して、白雲主稜線上のホウキが峰や弥次平峰が見える。14時頃、石楠花の密生する赤高山に着く。展望をなくす北尾根を下る。石楠花の林をくぐり背を越すとクマ笹をかき分けて下ると、中腹で紫みから解放され、眼前に大展望が広がった。

正面には奥の迷峰(三石山)が三方に帳を

張り出した奥深き山容で立ち上がり、遠く龍岳から明神岳・龍見野峰にかけての山塊が、優美なカーブを描き、西面は赤高山から西へ派生する尾根とピークが縦横に続き、登り降りから階に向きを変え、白雲谷に達する。眼下に赤雲谷が深い切れ込みを見せている。そして遠く高見山脈の山々……。どちらを見ても山また山、私は大展望に満足すると同時に、こんな山中で検校でもしたらどうなるだろうか、と余計なことまで考えた。単独行の楽しさと危険は表裏一体にある。気を引き締めよう。白い岩石が点在する崖根を下る。途中やや左へ曲がり谷へ踏み跡あり樹林帯に入ると、すぐ左から右へ明確な道が横切っているが、背テープに尋かかれまっすぐ下り、雑木の中の小さな上下を繰り返して、ようやく赤高山と奥の迷峰の鞍部に着く。樹間より右の奥の平谷側を見ると、白い大岩が一面に谷を埋め、源流の瀬がきこえる。葎草が地と思われるが、所どころに動物の糞跡が転がっており、あまりよい居心地ではなかった。

鞍部から笹と雑木の中の急坂を約40分登り、15時30分頃、槍と石楠花のある奥の迷峰の岩のピークに着く。今度は両面の展望が開け、今日歩いてきた池水無山、千里ヶ峰、赤高山が仲よくピークを並べ、遠く大台山系の

山々が東寄せと続いていた。岩のピークからすぐ西にある奥の迷峰の本峰を過ぎ、北尾根を下ると左に水ノ安や湯を流した龍滝。龍間に龍ヶ峰から明神岳に続く深い樹海の岩壁が間近に迫る。遊歩路は再び深い樹海の中となり、龍滝に利かないが左右に深い谷を見下ろし、飽きない縦走が続く。フナの巨木と小笹が敷きつめられたスロープを登り、16時過ぎ、笹ヶ峰を通過する。ここから明神岳西面にかけては尾根の幅が広く、ガスの時はコースを外さぬように注意が必要だ。

明神岳が近づくと、龍根の左端を縫うように登る。左手雑木越しに、遊歩川に下る谷の山肌を深く破る白雲帯を見て、16時40分明神岳に着く。10分ばかりで三ツ峰に下ると、前面が明るく開け、明神平が暖かそうな西面をいつぱいに受け、私を待たせてくれた。笹のスコープを二気に駆け下り、17時10分明神平に着く。4人の生衣がアン、を張っていた。この夜は満天の星のもと、静かに海苔の一夜を過ごした。

翌朝4時に目を覚ます。学生達は回見山まで縦走とのこと。5時頃山頂に降り立った。フライシートに雑水が張りついていたが、今日も快晴。5時30分水無山に向け明神平出発、急坂を登る。振り返ると朝の陽光を受けた湖

野の花讃歌 (3)

市川 正次朗

廃村八丁のカタバミ



廃村八丁の
の名前を暗文社の
植園・京極北山？
で初めて見つけた
マ教年明 都会育ち
の私は言い知れぬ
ロマンを感じたも
のです。

最初に拾ったのは3月初旬、菅原から歩き始めた林道には前後からの雪がびっしり、とても登りきれないといさぎよく退散。ふもとの川岸で、芽吹き始めたユキヤナギを愛でながら、弁当を広げました。

そして次に出かけたのは5月中旬、濃い緑、萌黄色に彩られた雑木林の中を伝道なハイキング。めざす廃村八丁の手前の杉林にカタバミの群落が、決して自己主張をしないひかえ白な態度で、小さな花を咲かせていました。中にはピンクがかかったヤツもいて、時

を忘れてシャッターを押さ続けたものです。ガイドブックの写真にあった白壁の土蔵はすでに崩れ落ちたけれど、かつて人々が暮らしていた名残りの石垣や井戸の跡が、鳥の声のほか何の音もしない山間に、静かに眠っているようでした。

こんな山深いところに住んでいた人達、豪雪に生活の迹を絶たれ、この地を捨てた人達。そうした人達の思いはどうてい御り知ることには出来ないけれど、崩れた土蔵の前にしばし寄り込んで、廃村、という名にあらがれさえ持つていた自分、恥ずかしさを感じてしまいました。

杉林の中、石垣の上、土蔵のまわりには二リンソウが満開。あなたたちは八丁を昔から今までじつと居続けてきたのです。

氷室の里のササユリ



野でも山でも、
自生する花が近年
めっきり少なくな
ったといわれます。
ササユリ たこえはササユ
リ。私たちの会の
メンバーの和歌山
県出身のTさんい

わく、「子供の頃、母親に連れられて登った熊雨の裏山には、そこかしこにササユリが咲き、あたり一面、あのかぐわしい香りが溢れ溢れていた」と。しかし近年、たまたま崩壊した折に裏山を歩いても、まったく見られなくなってしまうと嘆く、ことしきり。

ササユリに若い頃の初恋の記憶がいつぱいのTさんが、毎年この季節になると、「行こう、行こうよ」と私たちを誘うのは、京都・北山の氷室の里。廃村から車で半時間ほどで行ける近場なので、午後から時間の空いた車中に声をかけて出かけてます。

高尾山を越えてすぐ、四方を山で囲まれたのどかな山里です。山沿いに田んぼのあぜを縫って歩くと、日当たりのよい斜面にあのササユリのりんとした姿が、そこそこ。花の姿は雑木にかくれて見えなくて、あの甘くやさしい香りで、「私、ここに咲いていま」と教えてくれるのです。

花と岩と海の展望

蝶螺ヶ岳・西方ヶ岳

松田敏男

敦賀

30歳を過ぎた頃を境に、山への関心が衰えてきた。それまでは3000m級の山以外には、あまり興味がなかったのに、近郊の山へ遊歩を回らずに行きたい気持ちが強くなったのだ。そんな頃、ふと書店で手にこったのが、

「中絶子向きの山100コース」関西編である。この書籍にはいきさつが抵抗があった。買いたいものどうしようかと迷ってしまっただが、落ち着いた本で、写真や板書図などのレイアウトにあたたかな感覚があり、たいへん気に入ったので、買った。

奥美濃など、他の地域の案内や、もっと詳しい内容の本を手にするまで、この本が、山へ行く時の参考資料の中心となった時期で、それがしばらく続いた。山への想いは、いろ

いろな方面に及び始めたが、敦賀里の山は、少し遠いわりに700m台しかないというところとで、なんとなく後回しになっていた地域である。

蝶螺ヶ岳という名前には魅力を感じていたし、海に突き出た半島の山ならではの強風は、おそらく他にない良さがあるだろうと、先送りすればする程、想い遠くす密度が高くなっていったように思う。しかし山行計画が広がって深まっていくにつれ、「行きたい山が細割分製のように増え続け、琵琶湖、新緑期、紅葉期などは、機を待すとも表現したらいのだから、その時期に行きたいという山々が、いわばダム湖の水のようにたくさんストックされてしまっている。一方、6月上旬

キリツマツツ (後方は西方ヶ岳)



旬というのは、それまでの私にとっては、真夏の次にあまり期待できない時期だと思っていた。もちろんこれは、近郊の山に限った河断ではあるが、しかし、それは間違っていた。いろいろ花々が私たちを迎えてくれたのだ。

出逢の夜は、私の所属する、山と時に相しお金の奥旨だった。「山と溪谷」誌で新人募集をしている時期なので、どんな会が見学

に来る人の多い月の集会所、閉会後、ピナガ
ーアンへ行こうという4話になつていたが、
私と山口さんは集会所を山行きの集合場所にし
て、最大の星の下でのピナントと決めて
いた。

山口さんの車で一路坂道をめざす。登田で
夕食を済ませ、国策スキー場の手前でピナ
ーを賣う。初めての道で、方向が分かりにく
いので、海に沿って行けば間違いないだろ
うと、まずは、数箇所に止まる。そして日本三大
松原のひとつ、「氣比ノ松原」の中を走つた。
夜なのであまり見えないが、昔の姿を今に伝
える松の林は、日本独特の風情があつて、い
い所のように感じた。観光地を抜けると、市
街地はわずかで切れて、暗闇の中、ひとつひ



とつとつ集落名を確認しながら北上する。暗く
て海との距離がつかぬ。少しの暗闇にも、
海沿いの道から離れて山の中へと方向を間違
えてしまったのではないかと、いう迷いを覚え
たりもした。浦原の地名を確認することで確信で
きないまま、原平力産産所の裏の看板も間違
ごし、少し行き過ぎてしまったが、山手に折
れる道を見つば、寮の前に着いた。寮の中に
入って、テントの設置許可をもらう。寮の裏
側の急坂を登って、北側の浦原湾が見える所
で、アスファルト道は終わっていた。行く手
は雑草がびこっている。

土の上でテントが寝れないのは少し残念だ
つたが、設置場所が決める。しみじみと自然
の中でのピナ気分になる。テントを建てても
雑草や樹木に囲まれていて、星空は
少しの広がりしか見えないが、日常
の生活とは別世界だから、自然と一
体感になつてくる気分、心はな
ね。夜中に雨が二度ばかり降つ
たので、山行を心配したけれど、
明け方みればアスファルトもテント
も乾いていて、曇天だった。
テントを張った傍らに、ちよつと
した雑草が咲いたので、本の説明
とは違ふが、それを認めることにした。

分りにくい道だったが、雑木林の道の中の
広くて緩い斜面を登る。日印のテントはない。
20分程で登山に出た。左から幅の広い道が上
がってきている。広い道に出るとホッとする
が、その一方で草や木のおいが薄れ、足
の感触もやきやきと強くなる。しばらく登る
と左手に水場があった。家外冷たい水で、爽
やかだ。暗くてひんやりとした雑木林の巨木
に、ギンリョクソウが咲いていた。雑草の
ない白い空で雑木の根元に伸びている光景
は、独特の雰囲気だ。この山は先程からゴミ
の多いのが気になつてきた。

登山中に既製の良い所がある。浦原湾に猪
ノ池、その半島の先の小さな島などが、霞
海の大らかな景色の手前に霧のようにおさま
っているのが見える。急登を過ぎると北の方
に透けている道との分岐にいた。その光も
徐々に高度を上げて、長命水の標記の前に出
た。ゆつたりとした流れを前に、階段に気持
ちのやわらかい所だ。ただしこもこもが白空
つ。

周りが見えなくなった。新緑や
紅葉の時期はさぞかし素晴らしいだろうと思
われた。ゆるゆるとした登りが続き、一枚板岩
に着いた。キラシマツツジが岩との絶妙な配
置で咲いていた。少し涼めの花ではあるが、

変化の乏しい緑の山というイメージをいだ
いていた私には、とてもその華やかさがうれし
かった。一枚板岩から次々に現れる花の種
類の多さには、たいへん驚かされた。白い花
青味のはいた清楚な花、かわいらしい薄紅色の
花、図案を持つてきたらよかったと今さら思
つてみてもしかたがない。思いもよらなかつ
た時のうれしきは倍加して大きい。岩がそこ
ここに点在し、雑木林の樹相が美しく、多く
の種類の花々が足元に咲き乱れている。この
季節の山の魅惑的な華やかさ、これは完全に
予知外だった。山口さんとの山を遊んだこ
とに大満足しながら、嵯峨ヶ岳(685・5
はむ)に到着した。



花崗岩がいく
つも山の緑の中
から顔を出して
いて、なかなか
変わつた味め
だ。そして周囲
三面が海という
珍しい景色に見
惚れた。頂上よ
り雨に少し下つ
たあたりの雑林
帯は見事だつ

た。美しい横柄をしていた。道が緩く回りこ
んだり、小さな起伏があつたりして、要心地
になれる。何か森の奥深くさまよつていよう
な気分が分つた。尾池は水は汚いが、花がいつ
ぱい咲いていた。タニツツジと白い花の雑木
が、薄日に光つていた。池には大きく成長し
たミスバショウの葉がいくつもあつた。かも
しか台は明るい扇形地帯で、こころも時はゆつ
くりと流れているようだった。分岐に戻つて
降進すると、水場の産産所右にあるので、下
つてみた。美しいシダの間で、わずかの踏み
跡をたどって水場に降り立つ。水量がわずか
なので、補給するのに時間がかかった。後線
よりわずかの所に、滑らかな水が湧き出してい
るのが不思議だった。河りはひんやりとし
て、シダの浅い緑色が、地面全体から無数に
ふき出している様子が、目によろしかった。

水場の分岐からはすぐに雑林が見えて、西
方ヶ岳(764・1)の頂上に着いた。4
人ぐらいたはれそうなお小泉は、きちんと整
備されていて、地元の山岳会のノットが備え
てあった。前の山岳会にはテントが設置はれる
。雑木が邪魔して海は一方方向にしか眺められ
ないが、いつかここで1泊したいなあと、2
人の意見は一致した。雪の季節はまた格別の

採わりがあるだろう。
車や来ているので、往路を引返すことに
なる。岩と雑木林と花々の咲き乱れる山道は、
同じ道を二度歩いても新鮮だった。日本産園
をそぞろ歩きしているような楽しさだった。
これだけゆつくりした気分になれたのに、小
さい山だから、まだ午前中だ。嵯峨ヶ岳に戻
つて昼食。少々暑い季節には、生でパツカさ
れたスパゲティがおいしく食べられることを
発見した。

低山なのに、花の種類が多さは変化のある
景色は、北の海に突き出た半島の地形による
のではないだろうかを話した。きびし
い気象条件が、このような美しい所をつくら
たのだろう。長命水を過ぎ、準備になった
急な道を下る。鉄道の所で、左に小さな道を
見つけ、入ってみる。その道端には、美しい
ササユリが咲いていた。今日の山の山行を締
めくくる大輪の花々だった。

平成4年6月7日(火)

ハコースタイム(浦原)と時間(嵯峨ヶ岳)1
時間(西方ヶ岳)と時間(浦原)

(地形図) 2万5千1:1地形

熊野古道を歩く

— 熊野三山への道（大雲取・小雲取越え） —

児嶋弘幸



大門坂の御幸姿（「あげいん熊野詣」より）

紀伊国辺から山に分け入った中辺路は、三軒茶屋で高野山からの近小辺路と合ひさり、被戸王子を経て熊野三山のひとつ熊野本宮大社の御城へと導かれていく。
 上皇が熊野三山に参詣することを熊野御幸と呼び、宇多上皇より山上皇の時代にかけて約百度に及ぶ熊野詣が行われた。こうした熊野御幸の熊野三山参詣順路は、まず熊野本宮大社に参拝した後、川舟で熊野川を下り、新宮の熊野速玉大社へ、そして陸路を熊野那智大社に詣でる。その後、大雲取、小雲取の陸路を踏んで本宮に戻り、再び中辺路を通って都に帰っていくのが常道といわれている。
 ここで後鳥羽院の熊野御幸に随行した藤原定家の日記『熊野御幸記』の記述を拾いながら、熊野三山参詣の道筋を追ってみることに

熊野速玉大社



しよう。

本郡を出発してから12日目となる建仁元年10月16日、熊野本宮を目の当たりにした定家は参拝の感懐を「山川千里を過きて、つい先前に参拝す、感懐無じがたし」と綴っている。翌17日は雨による熊野川の増水で、逗留を余儀なくされ、出発を1日延期。翌18日の早朝、「河原に出て乗船」とあり、川舟に乗って熊野川の丸屋八丁（約35里）を下っている。午後、時、熊野速玉大社近くの湖に着き、速玉大社に参拝した後、その日に新宮にて一泊する。19日は陸路を渡す千、佐野王子、被戸の宮王子と歩き、熊野山をめざすことになる。大門坂入り口の下屋石の前で輿からおろされ



た定家は「船組の通路は曉より不食にて無火極めて荷なし」と記し、やっとの思いで熊野山にたどり着いた様子が窺いとれる。20日早朝には雨風の中、大雲取・小雲取越えに向けて出発。「雲霧・雨の中は海ノ如く、林宗の如し、終日船組を過す。中略、マドリ、船組は手を立つるが如し」と、書き記し、その日の午後、時、再び熊野本宮に帰着している。とはいえ定家は熊野街道最大の難所、大雲取・小雲取越えを一日という断片的な行程でこなしている。この後、10月26日に藤原常長に頼り、22日間の御幸を終えることになる。
 今身では、熊野三山参詣の道筋となる「本宮大社から大日越え」「新宮大社から高野坂」「那智大社から大雲取越え」「小和利から小雲取越え」の4コースに分けて紹介することにした。

熊野本宮大社から大日越え

熊野本宮大社の境内である。熊野本宮大社は、家都御子神を主神とし、全国熊野信仰の総本宮の位置を占めている。正前に神門、左手に拝殿、奥に十二柱の神々を祀る栴檀葺きの社殿が鎮座している。社殿をあとに石段を数段、つた右脇に、古道がひっそりと残っている。

本宮大社の大鳥居をくぐり国道68号線を斜め右に横切ると、大斎原のこんもりとした茂った森が見えてくる。音無川、岩田川、熊野川の三つの川が合流するここ大斎原は、かつて熊野本宮の幾棒もの社殿が立ち並んでいたところ。明治22年の大水害で、ほとんどの建物が流出、そのとき流出を免れた上四社・本殿などを現在の社地に移したが、建造物の規模は以前の八分の一になったという。定家が「……感涙祭じがたし」と記した当時の大社が、いかに豪華絢爛であったかは想像

に難くない。今は中四社・下四社を合祀した二つの石祠を残すのみだ。参詣の人々は、この地の産物より船に乗って、新宮運玉大社へと向かったとされている。

ここでは音無川に架かる小橋を渡り、湯の峰温泉へと向かうことにしよう。石段を登ると、先ほどの国道168号線に出合う。国道を南下、三叉路を右、次の三叉路を左にとると、右側に大日越えの古道入り口を示す道標と石段がある。大日越えと呼ばれる道は、本宮大社参詣を終えた人々が旅の疲れをいやすのに利用したとされる。民家の軒先を通り抜け、大斎原の森に列ねる告げ、杉林の中の石段を登っていく。30分余りで大社境内の大日社に登り着く。社殿には鎌倉時代の作と伝えられる石仏、大日如来像が祀られている。

さらに登ると大日社に出る。時から湯の峰側に少し越えたところに、滝穴地蔵と呼ば

熊野本宮大社



れている二体の地蔵像が、長い歴史を語りかけるかのようにはっきりとたたずんでいる。地元では左邊五郎にまつわる話が残されている。古道は標高約1000mの下り坂となる。やがて参詣の匂いが漂う湯の峰王子跡の小台地を通り抜け、湯の峰温泉郷の中ほどに飛び出す。

その昔熊野の国道、大阿刀足尾が発見したと伝えられる湯の峰温泉は、熊野詣での



人々の湯治場であり、湯治宿でもあった。湯の谷川の畔に建つ中光寺の本尊は薬師如来、湯の花の化石で造られた薬師像の胸から温泉が湧いたという伝説により、ゆのわね基軒と呼ばれる。それが離



て現在の地名、湯の峰になったという。ここ湯の峰は、小栗判官と藤手姫の話が流きにしては語れない。曾孫国(今の天城郡)の小栗城主の子、小栗判官が、毒の入った酒を飲まされ全身が麻痺してしまった。一遍上人より湯の峰温泉入湯の教えをうけられた藤手姫は、判官を助け、はるばる湯の峰にきて入湯治療の末に全快する。この時の話が、熊野詣道が別名小栗御道と呼ばれ、広く世に知られるようになった。判官が自分の力を献じたという力石、判官の髪の手を結んでいた薬に補薬がついていて、その薬が落ちて、それ以後毎年、おみを湯かなくても湯が生えるという時々の稲、また判官を乗せて来た車を地めかという車塚、判官が湯治に使ったというつばき湯など、二人に関する遺跡が数多く残っている。

野越峠う山吹の出湯、湯の峰の一角に立つと、いにしえの人々が思い思いの願いを抱きながら、熊野へ向けて一歩一歩踏みしめて歩いていった様子が蘇ってくるようだ。

△コースタイム△

JR天王寺駅(阪和線)のきのくに線 特急で約2時間 JR紀伊田辺駅(アスパス)時間20分 本宮大社バス停(10分) 熊野本宮大社

(20分) 大斎原(約5分) 大日時(30分) 湯の峰王子跡(5分) 湯の峰温泉(10分) 力石・時かずの稲(30分) 車塚(40分) 湯の峰温泉バス停(アスパス)時間 JR紀伊田辺駅(きののくに線) 阪和線 JR天王寺駅

△コースタイム△

- 和歌山県観光協会 07334 4631
- JRバス紀伊田辺営業所 0739 0534
- 本宮町観光協会 07354 0735
- 熊野交通バス 0735(22) 5101
- 奈良交通バス 0742(22) 1171
- アドバイス
- ◇ コース中の到る所に、道標がつけられており、迷うことはない。(和歌山県観光協会等で本コースの地図を手に入れると便利)
- ◇ 本宮町内には湯の峰温泉をはじめ、川湯温泉、わたらせ温泉などもあり、宿には事欠かない。
- ◇ 湯の峰温泉からは、紀伊山道(外に五橋新宮方面にそれぞれバスが通じている。

田原 弘幸

熊野速玉大社から高野坂

熊野速玉大社は、熊野三所霊現の名で三太子宗我部王四を構成していた熊野三山のひとつ。千鶴ヶ峰の山麓、熊野川の流れる谷間に、あざやかな朱色の社殿が輝煌している。境内には国宝・重要文化財などを展示する神宝館をはじめ、平清盛の長男、重盛が手植えと伝えられる大きな大木、佐藤孝夫の「阿彌五月歌」の詩碑などがある。この地を新宮というのは、神倉山に鎮座していた神をこの地に遷したことに由来ともいわれている。

熊野速玉大社の大鳥居から千鶴ヶ峰の山麓を南にたると、熊野三山の元宮といわれる神倉神社に着く。538段の白石段を敷きつめた石段が、御油休(トビ)止岩に向けて延びている。眼下には、かつての熊野の都、新宮市街、その向こうに臨海灘が広がっている。再び熊野速玉大社まで戻り、東へまっすぐ国道4号線を横切って進むと、突き当たりが

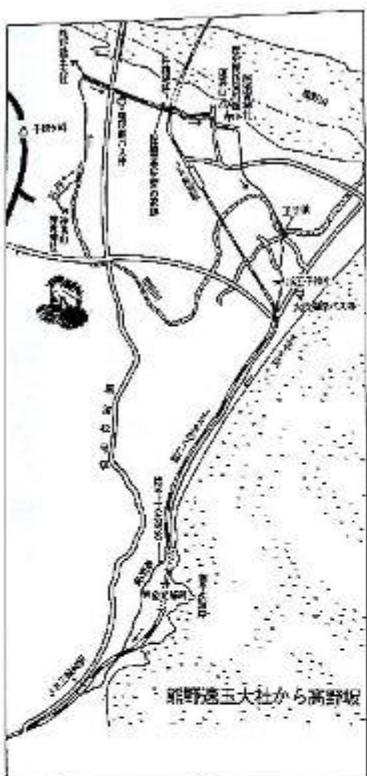
佐藤孝夫の生家跡である。丹波城跡の石垣に沿って左に折れ、緩やかな登り坂を越えると、家並みの向こうに露崎蓬萊山の小さな峰が見えてくる。不老長寿の聖薬を求めて丹波山を出航した徳信は、長い航海の果て、ここ蓬萊山にたどり着いたという。まっすぐ下り、山麓を右、左と巻くと阿彌神社の正面に出る。

阿彌神社は古来、飛鳥社とも称し、三口に交々社格を持つ庄屋の深い神社で、境内からは多くの新玉式土葬が出土している。隣に歴史民族資料館が併設されている。神社を出て左、右と進む。ほぼまっすぐで、1R新宮駅からの広い道を横切る。なおもまっすぐとどり、市田川に架かる第二王子橋を渡って王子町にはいる。しばらくして前方に王子神社の森が見えてくる。かつてこの社を王子子と呼び、神皇天皇出征の際、荒れ狂う

王子ヶ浜



熊野速玉大社をめぐって、軍船の危険を感づいた皇日靈廟(命)と三毛入野命の二柱を祀っている神社を出て右へこのあたり耳を澄ますと、かすかに波の音が聞こえてくる。きのくに線のガードをくぐりかけると王子ヶ浜の海岸線が広がる。これより王子ヶ浜の砂浜を数路と平行して高野坂へと向かう。やがて王子ヶ浜の西側付近で、きのくに線の線路を渡る。右岸、扇角からの、近世の道



と合わり山裾に取りつく。これより三輪峠に越える道を高野坂という。小流を渡り、少し森の生え込んだ道を通り抜けると、古道はきのくに線をその姿を現してくる。振り返ると王子ヶ浜の海岸線がきれいな弧を描いている。明るく開けた道筋の傍ら、徳木上人名号碑を見渡す。しばらくして左手にこんもりとした森をなす、金笠石高がある。おな木の森と呼ばれているところで、袖隠大薬がここから旅装を脱しましたといわれる。この辺りから知地となっており、眼下には新宮・孔を配した熊野灘のヨボエな風景が開けてくる。

す。きのくに線の線路を渡り、右手からの日岡道を含めて、丁字路を右折し、1R三輪峠駅へと向かう。

△コースタイム▽
1R天王寺駅(阪和線)・きのくに線 特急で約4時間 1R新宮駅(90分) 熊野速玉大社(90分) 神倉神社(90分) 熊野速玉大社(90分) 阿彌神社(90分) 王子神社(15分) 王子ヶ浜(40分) 高野坂(40分) 1R三輪峠駅(きのくに線) 阪和線 1R天王寺駅

△地形図▽ 2方51―新宮・熊野

△問い合わせ▽

登山に必要なものは、
国産・舶来
すべて揃っています。

足にピッタリ/
登山靴のことならお任せ下さい。

〒604 京都府中京区丸太町通堀川東入
☎ (075) 211-5766
FAX (075) 231-0318

山とスキーの専門店
京都 ムラカミ

和歌山県熊野速玉町 0734422(4631
新宮市徳光院 0735522(2840
熊野交通バス 0735522(5101
アドバイス

◇熊野速玉大社へは熊野交通のバスを利用すると速い。

◇本コースは新宮市内を通り抜けているため、町中で迷わず、とくに熊野速玉大社から阿彌神社、王子神社までの経路については、熊野灘で道を案内しながら歩くことになり、熊野坂の入り口付近がブッシュとなって、熊野坂の入り口付近がブッシュとなっているため、迷わないように注意すること。

(大野) 監修

大門坂から大雲取越え

大門坂から大雲取越え

大門坂バス停下車。左側山手に大門坂の熊野古道が思っている。一歩足を踏み入れると、樹齢約600年の天棚杉が私たちを迎えてくれる。恋した人妻、裂衣刺殺事件が手にかけて殺した文藝上人が、藤原氏の謀略で地位を追われた花山法皇が、西行法師が、そして多くの人が、さまざまな思いを心に抱いて登っていった道である。九十九字最終の多賀野千子跡を通り過ぎると、右三樹々の間から日本一の名瀑、那智の滝が一筋の線を描いて樹林帯の中に落ちている。

昔むし大石道を登りつめ、みやげ物店の並ぶ間を通り抜け、分岐する右段を左に登ると、そこは熊野第一の霊域、熊野那智大社である。朱塗りの華厳弁伽で、毎年7月14日に行われる、那智の火祭り。は、夏の風物詩を彩る一大ページェントである。隣接して奥形、上人の開基と伝えられる西国第一番札所、上人の開基と伝えられる西国第一番札所、上人の開基と伝えられる西国第一番札所

丹見峠をあとに、上三谷の出会いと呼ばれる下り八丁となり、林道との合流点、色川辻に降り立つ。味津を左に右にほど進んだら、右手の山道に入り、林道を左に見ながら緩やかに登り下りとなる。再び林道を横切り、谷川のせせらぎに耳を傾けながら林道を道を歩く。やがて上三谷は村道併存し、休憩所のある出雲系林道に続く。藤原定家が「山中ただ二字の小室あり」と書いたところで、江戸時代に奥州界の通商人が寄進したという石地蔵三十二体を集める地蔵堂があり、傍らに休憩所も建てられている。

熊野古道の道つき道の右手に大雲取越えの石段があり、樹齢にはみょうほう山(廿三丁)の磐石がひっそりと立っている。杉並木の中をしばらく登ると、「左 勢法山 大雲かけのけ道」と深く彫られた大きな徳石の立つ三丁の分岐に着く。左は勢法山峠由で、那智高麗山向かう道、右は那智高麗山直登する道。ここでは右に道をとる。杉林の道を登りようとするとき、かつて木口平と呼ばれた那智高麗山を登る。雲取越えの山中に出発した標物に、「一つたたら」というのが。身の丈一丈四尺八寸、目一つたたら一本だが、その行動は神出鬼没で風のように変わり。一つたたらは那智高麗山の神宝を奪い、熊野那智の輩人を襲って跡根をかすめることもしばしばであったと「熊野那智風土記」にいう。この愛憎、というより三

所、熊野那智の道つき道の右手に大雲取越えの石段があり、樹齢にはみょうほう山(廿三丁)の磐石がひっそりと立っている。杉並木の中をしばらく登ると、「左 勢法山 大雲かけのけ道」と深く彫られた大きな徳石の立つ三丁の分岐に着く。左は勢法山峠由で、那智高麗山向かう道、右は那智高麗山直登する道。ここでは右に道をとる。杉林の道を登りようとするとき、かつて木口平と呼ばれた那智高麗山を登る。雲取越えの山中に出発した標物に、「一つたたら」というのが。身の丈一丈四尺八寸、目一つたたら一本だが、その行動は神出鬼没で風のように変わり。一つたたらは那智高麗山の神宝を奪い、熊野那智の輩人を襲って跡根をかすめることもしばしばであったと「熊野那智風土記」にいう。この愛憎、というより三

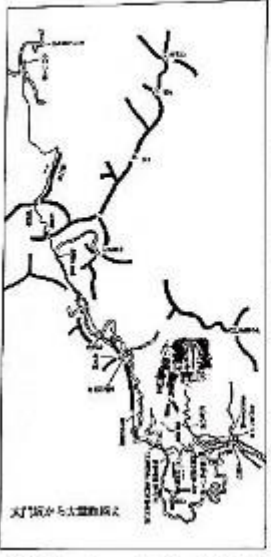
り、熊野那智の道つき道の右手に大雲取越えの石段があり、樹齢にはみょうほう山(廿三丁)の磐石がひっそりと立っている。杉並木の中をしばらく登ると、「左 勢法山 大雲かけのけ道」と深く彫られた大きな徳石の立つ三丁の分岐に着く。左は勢法山峠由で、那智高麗山向かう道、右は那智高麗山直登する道。ここでは右に道をとる。杉林の道を登りようとするとき、かつて木口平と呼ばれた那智高麗山を登る。雲取越えの山中に出発した標物に、「一つたたら」というのが。身の丈一丈四尺八寸、目一つたたら一本だが、その行動は神出鬼没で風のように変わり。一つたたらは那智高麗山の神宝を奪い、熊野那智の輩人を襲って跡根をかすめることもしばしばであったと「熊野那智風土記」にいう。この愛憎、というより三

切取と呼ばれる急傾斜の道を登るようになり下っていく。踏切に石地蔵、築垣が目につくようになると、樹久保の集落に着く。やがて薬師伝、阿婆伝、龍音寺の三つの発音が刻まれた、円形石、と呼ばれる大石がある。熊野の神々がこの上を歩いたと伝えられる。林道所を通り過ぎ、さらに下ると小口の標物が現れていく。

熊野那智交通バス 22分、大門坂バス停(3分) 去勢杉(5分) 多賀野千子跡(6分) 那智大社(8分) 曹達寺(10分) 那智高原(1時間20分) 丹見系林道休憩所(30分) 色川江(1時間10分) 道蔵系林道(1時間) 越前峠(1時間) 樹久保系林道(1時間) 休憩所(1時間) 小口バス停(熊野交通バス1時間10分) IJR新宮駅(きのくに線・阪和線) IJR大宇寺駅 (地形図) 2万5千/紀伊大野・本宮・新宮 問い合わせ



熊野那智交通バス



コースタイム
IJR大宇寺駅(阪和線・きのくに線) 特急予約3時間30分

- 民家の障子をすり過ぎると小口バス停はもうすぐの所となる。
- ハコースタイム
- IJR大宇寺駅(阪和線・きのくに線) 特急予約3時間30分

- 熊野那智交通バス
- 073555 (2) 5311
- 073554 (5) 2434
- コース中の到着所に、道標がつけられており、迷うことはない。
- 小口の宿地帯として、「小口白雲の湯」がある。またキャンプ場も完備している。
- このコースを歩く時には、次項の「小雲取越え」コースとあわせて設定するとよい。
- 熊野那智交通バス
- 073554 (4) 0301
- 073555 (2) 5311
- 073554 (5) 2434
- コース中の到着所に、道標がつけられており、迷うことはない。
- 小口の宿地帯として、「小口白雲の湯」がある。またキャンプ場も完備している。
- このコースを歩く時には、次項の「小雲取越え」コースとあわせて設定するとよい。
- 熊野那智交通バス
- 073554 (4) 0301

小和瀬から小雲取越え

小和瀬バス停の河原は、かつて舟の渡しのあつたところだ。これより小雲取越えの道が始まる。

足り船を渡ると民家の軒先に石段があり、小雲取越えの石段道が、まっすぐ上を指している。アカマツの根が石垣にからみ思いがけない広い道。ただただ長い階段を、息を切らせながら登る。やがて林相がアカマツ林から檜の植林に変わると、道の木立が急に密になる。

屋敷を伝っていった道がこれより山腹をからむようになる。振り返れば白下で、小口川の蛇行した流れと大雲取山方面の山並みが一望できる。しばらく歩いて杉林の中を石垣の残る狭い道に歩く。小口から熊野古道までの間は、登の坂と呼ばれる道で、熊野街道通称の「登坂」を呼んでいる。繁葉屋は明治の末まで茶屋があったところ。「紀伊国名所図説」に「登坂屋、坂口より五十丁白にあり、前に大木の

さくらあり、故に号すべし。軒家なり」とあり、そのさくらも二三株の古木であったようだ。ちよつとした下りの後、谷の頭で崖根に向けて登り始める。赤木からの道が右手から合流し、45分ほどの徒歩を小さくからみ終えると鞍馬である。古道は西に方向を変え、やがて尾根上の道をたどることになる。付近は自然林となり、ツツジの類が多く快癒な道となる。やがて薄暗い杉や檜の林の中に入り、道がおだやかになる。左手に休憩所と石垣跡が目にとまる。石堂本屋跡で、水場を示す道標もある。いしんが茶屋とも併設する。

道はこれより阿蘇原の登り下りとなり、北へわずかで右へ下る道が分かれ、続いて左に十九良谷への山道が分岐、さらに200mほど入ったところを右手に、谷口への道標がある。うっそうと茂る樹木は日の光を遮り、翠々と積り重なった小石は苔をまとって、妖

気味な音の河原を通り過ぎる。傍らには地蔵も祀られ、熊野が熊野の、つまり道標の置る地とする信仰が、この場所には河原を渡けたものであろう。

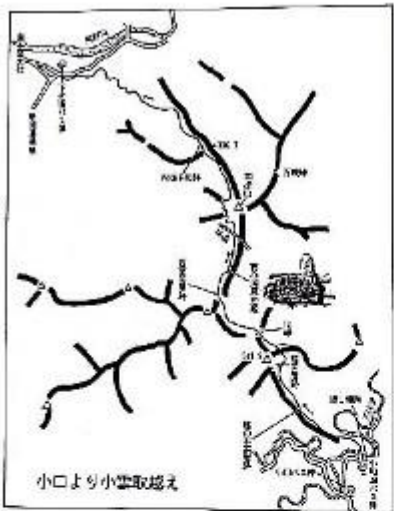
やがて前方に姿の良い如法山が近づくと、小雲取山というのはさわだつたピークである。この辺りの山稜を総称しての呼び名である。ほとんど終道を横切り如法山の西面、七台目辺りの山腹を回り込む。少しで北から西に大きく展望が開け、石地方山、冷水山、安楽山と続く果無の山々が、その左手にはコンニャク山、野竹法師、大坪山といった1000m級の山々がぐっさり浮かび上がる。山腹をからみ終ると、如法山への登路がある。定家は如法山のことを「栗金殿」と書いている。志古は禁令の詠ったものだという説もあるが、この街道を代表する山だ。北へしばらく進むと、渡津川によって扇村となった松畑の集落跡に到着。小広い台地に石垣を残すのみであるが、かつての難所は難所の中で登越と屋敷の区画を示している。

松畑を後に、おがやかな尾根沿いの道をたどると右手に樺界が開け、熊野前とその向こう果無・大鐘の峰々を這行快速な道がしばらく続く。やがて松林の中をくぐれぬと此がりながら、徐々に高度を下げ、樹々の間に熊野

川が見えかくれする。古道は石段となり、民家の前を通り抜けると国道16号号線、下地橋バス停に降り立つ。これより国道を北へたどること40分で、本宮入社、また大谷川をさかのぼること30分で川原温泉に到着する。

ハコースタイル

JR天王寺駅(阪和線)までの線。特急で約4時間。JR新宮駅(熊野交通バス1時間5分)。小和瀬バス停(40分)。推の木立(熊野)30分。熊野温泉(40分)。石堂本屋跡(30分)。如法山登山口(20分)。松畑温泉(1時間)下



小口より小雲取越え



小雲取越えから熊野川を望む

地橋バス停(熊野交通バス1時間)JR新宮駅

◆形状 2万5千1本宮

◆向い合わせ

和歌山観光協会 07334 (22) 4531
本宮町観光協会 07335 (2) 07335
JRバス紀伊(田辺営業所)

熊野交通バス 0739 (22) 0594
熊野交通バス 0735 (22) 5101
熊野交通バス 0742 (22) 1171
小口自然の家 07354 (5) 2434
マドハイム

- ◇ コース中の到着所に、道標がつけられており、迷うことはない。(和歌山観光協会等で本コースの道標を手に入れると便利)
- ◇ 本宮町内には湯の産温泉をはじめ、川湯温泉、わたらせ温泉などもあり、宿には事欠かない。
- ◇ 本町内からは新宮市以外に五條、紀伊田辺方面にそれぞれバスが通じている。
- ◇ 小口には「小口自然の家」があり、キャンプ場も完備している。
- ◇ このコースを歩く際には、前項の「大雲取越え」コースとあわせて設定するとよい。

(見聞 弘隆)

新ハイキング選書
● 日本山岳会選定 ●

第15巻最新刊
日本300名山ガイド<東日本編>

第16巻最新刊
日本300名山ガイド<西日本編>

各A5 320頁 定価1600円

発行所 新ハイキング社
東京都北区滝野川7-6-13
(03)-3915-8110
振替東京3-146915
● 振替でのご注文は送料当社負担

近世の伊勢街道ハイイク ③

伊勢街道（あを越え道）

青山町駅→阿保→伊勢街道→青山町→坂内宿→小俣→柳屋温泉口駅
明治前記には三重県通初瀬街道、昭和四十年に国道に昇格

中村 敏文

徳原町の蔵原宿跡にある文政十二年（1808）銘の「御室別伊弉諾伊弉册並道敷守藏人初生寺」の道標が、「石いせ不歩道」「左あをこ江みち」とある。近世後期から明治初にかけて伊勢まわりで賑わった「あを越え道」は、松阪の六軒で参詣街道から分岐して、大坂へと向かう「初瀬街道」として知られた古い道である。

古代から重要な道筋で、現在は国道165号の国道に整備され、近世の伊勢道で、ハイキングに適した道筋は少なくなっている。「あをこ江みち」の呼称は阿保山越えか、阿保の宿場を越えるからか、とかはさておき、近畿大阪線の利用を考慮して、5時間のハイキングコースを設定すれば、このコースしかない。

青山町駅から青山川（木津川）沿いに東進

する国道165号が伊勢道で、伊勢街道の伊勢路までは約1時間で行けるが、遅々とした伊勢街道で決まらない。

阿保宿は藤原氏が伊賀国で上野、名張と共に別荘を築いた三町の一つである。青山町駅から南へ木津川を渡ると橋詰に「阿保日記」（本居宣長の日記）が立てられ、約1.5ほど西へ伊勢道沿いに家並みがある。見どころは三重県有形民俗文化財指定の参詣道標百枚余を保存する森蔵主・料理屋の「たごや」だけである。上野街道と八知街道が分岐する所にある安政七年（1860）建立の本徳宮常盤様から南へ数分の地が、阿保街道の宿場地で阿保親王の墓がある。

国道を渡って南の山手をはしり上がると、著名な北原の地蔵六ヶ所神社が鎮座する。境内には地震鎮めの要石がどっかりと据えられ

同指定の本文の桃山建築の宝篋や新築された立派な本殿は阿保の鎮守社として風格がある。大村神社を下ると中山嶺のあった中山宿で、通行料一文をとった御進所があったとする文化八年の石碓が川底から発見された。

中山宿からは當麻守前へ出る旧道以外は回遊を進み、伊勢路橋を渡る。20軒余の旅館があり、賑わったという伊勢地の宿場で、壊れた本陣跡は「阿保山田半石門本陣跡」の石碓だけがある。大和では見られない「太一」の堂後様は文政十一年（1828）と銘で、十数年前まであった朽ちかけた大徳堂や古い家は建て替えられ、残っている豪勢な藤原風の建物は明治に新築した西屋・大和屋・徳田屋である。

伊勢路の薬師橋から伊勢道は国道になり、西青山駅までの2.5の間は三軒家跡が近鉄の鉄骨下にある。駅から東へ国道の北側に巨貫が見られる。1.5を歩くと桑原のランになつている白青山駅跡地で、以前は伊賀茶屋として賑わっていた休憩所である。

弘法大師の一夜作りという將軍塚、青山地蔵の前を過ぎると回遊青山トンネルも近く、右手の南側へ分岐する滑川林道が完成している。これは平安時代までの伊勢道といわれ、川口領営までを最端で結ぶ道筋で、青山町道

が開かれてからはすっかり廃れてしまった。トンネル付近の旧道はすっかり廃れているので、飲食店の右側から青山町宿場路へ入り表道を上ると三津路へでる。左手への道は

気をつけて右側を見ながら行くと、二人が通れる伊勢道がある。10分ほど行くと右手に道路工事のための移設された大板の道標地蔵がある。みや川を十二り半路、はせ道十一り半路、阿保大板一と刻んである。



大時からはほとんど通りぬけない500り計ほどの山道は、10分も下ると青山トンネル東口の1000坪先の国道に出る。

近世の中の時を越えた巨貫が流れているので道を通ると、左手に石垣を築いているのは伊勢本屋の跡。しばらく行くと白山園道下トンネルにさしかかる。

トンネルの上を回遊から北園へ斜めに繋断するのが小峠越えの伊勢道であるが、現在はトンネル入り口の手前から左手の小道に入り、急な上坂道を七半へへがって上坂へでる。

15分ほど小峠の坂根を歩いて右半園道へ入ると白山トンネルを抜けた国道である。園道から垣内宿手前の花山橋に下る急な八重坂道は、三重県道初瀬街道から旧二重道直上へた新道が建設される過程で消滅している。東道の価値をなくしただから坂の旧二重園道下ると垣内川の花山橋へ出る。

垣内川沿いの1.5ほどの家並みが垣内宿であるが、宿場の名残りは西入り口の古びた常夜燈、栗津受茶室道に残る最立碁のない常夜燈、大正三年に建てられた道標元標だけである。

垣内宿は青山町東口の好田宿にあるので旅館も数軒多く、寛文元年（1661）には同宿が宿場町とされていたと伝説のある宿場である。

明治に入るといち早く郵便局が設置されるなど、初瀬街道では宿場町とされたが現在は寂れている。

垣内の東外れの山の神をすぎ、垣内バス停で国道165号に入り、堀越から上ノ村へ入り大村川を渡る。川久家バス停から左へいけば東青山駅まで15分で行ける。上ノ村バス停の山の神から少し進んで国道右側の伊勢道へ入ると慈徳寺があり、寺から1.5ほど歩いて国道を横切ると成願寺の寺前帯である。

重文の阿婆陀如来を収める成願寺は、天台真盛宗の中本山阿婆陀山阿婆陀を尊し、明山は寛政十八、開基は地母の御宗門寺としている。上ノ村から中ノ村への旧伊勢道は一部消滅しているが、白山町境隈、後支那前の札懸跡へでる。垣内と二本木の宿場間にある上ノ村・中ノ村・阿の集落には、旅館も茶室も点在していたようで、近世大板の元主道標の間の宿として小俣（おやま）と称されていた。中ノ村から1.5余り北へ歩くと柳屋温泉口駅で、朝光と日輪を結びつけた岩山親光寺の金堂の十六羅漢像が建っている。

17.5、5時間コース
東近畿大阪線は「あをこ江道・初瀬街道」の集落を沿って敷設されたので駅は近い。

紀見峠から金剛山へ

松永恵一

くすのきさんのころ
陽光は燦々とさうめき、爽やかな風は山心をくすくす。靴の紐を締めてふらりと山に入ると、頬を初夏の風がやさしくなでる。

新鮮な大気とさわやかな香り。足もとにはサチツボスミレ、シユンランが咲き、握り拳をもたげたような蕨が、初夏の風にゆらゆらと頭を揺らしている。

山道でマムシに出会う。沢に入るとサツワガニが挨拶をする。日頃付き合ひの薄い仲間に出会う、身も心も浮き立ってうれしくなる。

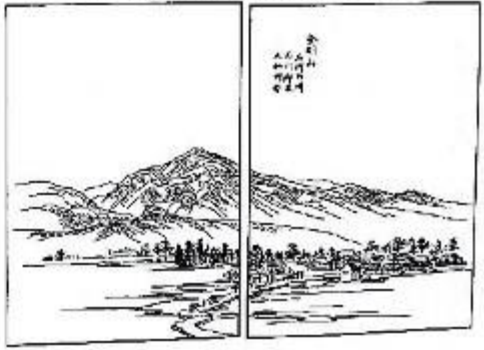
水面には木々の緑が映っている。土手には羽化したばかりの蝶が舞い、青々とした草が生えている。しゃがみこんで、蝶たちがストローを出し入れしながら、臆目もふらずに蜜を吸うのを、あかすに眺めていた。

気分のいい汗をかき、新緑の切り出した新鮮な空気をたっぷり吸い込むと、心地よく疲れた身体に食欲が湧いてくる。今夜は山のもをいただいて精をつけよう。

「わらびを採らんやたら、くすのきさんのころやで」と、山で会ったお婆ちゃんが言っていたのを思い出した。直立した柄の先が握り拳をもたげたようになっているのを、親指人差し指、中指の三本で下からしごいて、自然にちぎれるところから採る。

山のものには自然の命がこもっている。「一日おくと、たましいが山に帰ってしまう」と昔の人は言った。あくを抜いて、器に盛りたっぷりの削り節をのせ、醤油をかける。採りたての緑を食べると、なにか生き返ったような気持ちになった。

金剛山 (『日本名山図録』 谷 文見著)



金剛山はきれいな山形(傘状)を呈している。古く、神のまします神座(場所)神奈根(神宮)を守護する水分神の籠もる聖地として、他の山々とは違う思いを人々に与えてきた。古代豪族橘氏の伝承を伝え、平安時代に葛城修験の拠点として知られ、中世、前朝に忠誠を尽くした大楠公、楠木正成の伝承が多く、の遺跡とともに語り伝えられている。

文人墨客の足跡 近代

大阪朝日新聞の記者で、後に、文學博士になった西村天因は、明治二十七年(1894)7月6日に登った折の折行「遊金剛山記」を残している。明治の文豪、幸田露伴は明治四十四年(1911)11月19日に金剛登山を行い、その様子を「流心録」に「萬城山の雨」と題する隨筆で世に送った。大正十二年(1923)1月には、紀行文學で知られる大府桂月が登山し、昭和十年(1935)3月には大仏次郎が小説「大楠公」の取材で訪れている。

- 楠公 山國鉄舟
- 一 片、赤心 報 國情
- 千 秋、節義 至、今、薄
- 金 剛山 下、狐 城、畔
- 雄 将、虎 狼、百、萬、兵
- 楠 公 落、豆、田、文
- 己 ありゆきさくらゐの里
- 金 剛山の歌 藤田直道
- ああわが丈よ五千尺 脚は下なる地を踏みて 頭は遠く雲に入る (略)
- 金 剛山 前川佐美雄
- 命座の山に雲き出る雨雲のうしとらにわがひたらち降らす

古くは葛城山 高天山と呼ばれていたが、

修験道の開祖役(行者)役小角(役小角)によつて山頂に法法輪寺が建立され、その山号に用いられて以来、金剛山と呼ばれるようになった。

修験道の「派山縁起」に「この山に一度行く者、水く渡道に墜ちずと云へり。葎のむ所なるが故に」と記された金剛山は、金剛山参りと称して多くの人々に登られてきた。

昭和の初めに、回轉の風潮とそれに伴う公共交通の増進の高まりとともに登山者が増加したが、敗戦により金剛山信仰も一気にくすれた。現在は宗教色も薄れ、四季を通して手軽なハイキングの場として金剛山に登るようになった。

登山者の多くは一月一日に集中している。これは、金剛山の魅力が何となくとも厳冬期の樹氷の美観にあるからである。一日平均三千人、多いときには一万人を超える登山者がある。平日は小・中学校の生徒が団体で、休日にはファミリーが押し寄せ、紅葉登山を楽しんでいる。

「金剛山を敬仰して登拝を勵行し、健全なる精神と身体を養成する」ことを目的としているのが、金剛山登山会である。葛木相社で金剛山回教券(カード)を発行し、口付と印を捺して、登山回数を書いている。

千草城の戦い

「この城東西は谷深く切れて、人の上るべきやうもなし、南北は金剛山につづきて、しかも崖たえたり」と「大空記」に記された千草城は関原平野で訓練され、騎馬戦に長じた関東武士には、極めてお堅木に見えた。我先に攻め寄せた関東武士を大木が見舞った。柄を穿かれ、死傷者を記録するのに、十二人の書記が三豆委かかったという。この惨敗の後、将兵らの勝手な行動は禁止された。

次いで立てられた計画が名義軍による本道破壊作戦である。水を汲みにくるのを待って攻撃しようという計画だったが、城中の水の準備に怠りはなかった。待ちくたびれた名義軍を捕軍の射手が襲う。名義軍の故のついた旗と縁起物として、城の大手に掲げられた。名義軍にとっては不吉な事の上なく、五千余名で籠り下まで攻め寄せた。その時城中より大木を落とすたてにたまたま、たちまち四、五百人が押しつぶされた。

度々なる矢交際に、持久戦に持ち込まんと、日々を連続等の遊びに過した。因恐した楠公は、真人形に甲冑を著せ夜中に城の壁に置いた。夜明けにこれを発見した等々三は我先に攻撃を加えた。そこを大石が見舞った。



金剛山山伏 (『大和名所図絵』)

コース概観

今回のコースは、高野山への経路路で有名な高野街道の紀伊村から、起伏と変化に富んだ金剛山域自然歩道(アイヤモンド・トレール)で、金剛山の南極根を縦走し、古来、聖なる神奈備として、また修験道の行場としても未だ、『大分県』でよく知られている楠木正成が、歴東の大軍との攻防戦を繰り広げた千早城の地、大阪西下聖岳峰の金剛山に登る。

南海紀伊駅で下車。東へ根古川を渡り、三芳路を歩行。すぐ右に折れ坂道を登ると国民体育館前野田の面に右。石へ入り、山ナその民家の横から左折して本陣の集落を通り抜け、登って行くと旧国道に出合う。絶断して左にこつて峠の民家を左右に反て進む。この道は、高野街道としてさまざまに人々が往来した道であった。

峠に向かひて登つていくと、民家の右側に金剛山麓集落路の入り口を示す小さな道標がある。道標に従つて民家の横の小道を右に入ると、新緑のかき畑を通り、雑木林の小道をしぼり行く。しつかりした道標とベンチに出迎えられ、山の神を祀る小祠の前に出る。この地はすばらしいキャンプ地であったが、現在、水源地として使用されているためキャンプ等は禁止されている。

ここから再び急な木の階段登りとなる。ひとたすら登る。あえきながら登る。悪戦苦闘。かなりきつい。遅坂の上に登ると急登から漸放される。ベンチに腰をおろし、ひとあひれよう。木々の間をぬけて吹く風はとても涼しい。この爽快感はやはりなにもものにも代えがたい。何も考えず、ただポットと放ちたような状態が好く。

元気をだしてもうひと登り。国道修験の尾

根筋を登る。後陣されたところからの展望がすばらしい。もう一度あえきながら登り、ゆるやかに下ると、往本からの登降に出合ふ。右手の谷に前して後の行者の石俵を安置した小祠がある。季節の物とわすれかきりのお資鉢が供えられていた。近在の人たちの切ない祈りを感じた。この小祠は大抵峠の東の行者に對して、西の行者と呼ばれる。

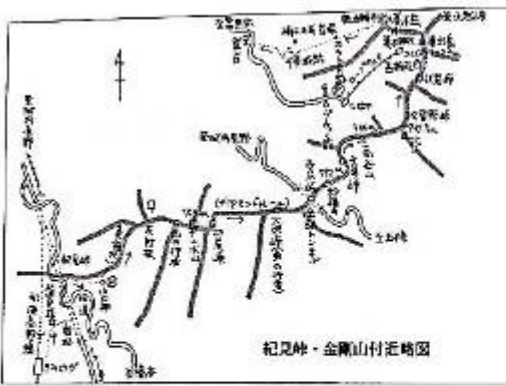
穏やかな登りで、タンポ山(Tanpōsan)を過ぎると杉尾路。右に下ると、かつて猿狹が盛んであった杉尾の集落。

小さな登り下りを何度か繰り返すと、古来、大相・河内・紀伊三国の境をなす峠として使用されていた。大相峠の広場にポツカリと出ると、杉の老木が繁り、根元に役の行者を祀る小堂がある。東の行者と呼ばれている、お参りをして、山行の無事とわが身の幸せを願う。

道は大きく北東に向きを変る。標のトンネルの中を行く。交差する枝からこぼれてくる木漏れ日のなかを、ゆつくりと歩いていく。どこでなく幻燈的で、どこどなく儼然な気分になる。城廓を越え、金剛トネルの真上の谷尻に出る。頂上に徳正神社の祀られていた神福山(テリノト)を、結びつくり登る。ゆるやかな道を進むと千早峠。奈良県五條市と大阪府千早赤阪村を結ぶ有名な峠である。

文久三年(1863)天誅組はこの峠を越え五條代官所を襲撃した。歴史の風が頬をかすしくなでる。

木の階段を登ると高谷山(935m)。クマザサの中を登ると中城山(937m)。北山とも呼ばれる。ころがりたくなるように気持ちが良い。真東に高見山。そして大峰の山並みが望まれる。眼下に吉野川が鈍く光る。



紀伊峠・金剛山村近略図

陣営を築きながらノンビリと歩を進める。大鶏頭を眺めたあとには、頂上をめざしてもうひとがんばり。

急な坂道を下ると久留野峠が、薄暗い樹林の中にひっそりと静まっていて。ここから伏見峠へは急な登り。所どころ岩もあつたりして、ちょっときつい。ゆるやかな道に変わって、車道に出合ふと伏見峠。庶民の軒千早城地(府内キャンプ場)が出現する。遊園地のロゴキャビンの左手に府立金剛山香楠荘がある。左手にロープウェイの山頂駅、歴史博物館をみるとまもなく瀧山(1117m)。

一ノ鳥居を下折すると大鷲峠から高城山へと向かう。鳥居をくぐりランナ林を愛でながら進むと仁正寺。維新天皇の御旅の伝説地を過ぎると藤次地。社殿の裏が苔木(フナト)。この地、旧集落跡は『西遊記』で「猿渡に高城の神社あり。大社なり。二宮主の神といふ。(鹿)大類、河内の鹿鹿此の神を敬崇し、社の下の土を少しばかり取て帰り、我田に入れば種よく実りて食はずとて参詣の人おびたなり」『和州遊記』に「婦人は此山に上る事をゆるぎず」と記す。元禄九年(1699)頃は、大峠と同じく女人禁制であった。

花崗岩が風化し、湯沢にえぐられた湯を千早しいたけセンターめざしてクンペン下る。

ハコースタイム

南海難波駅	高野線	約50分	南海紀伊駅	20分	本掛	15分	山の神	50分	西の行者	40分	杉尾路	25分	大分峠	45分	
千早峠	1時間	久留野峠	30分	伏見峠	25分	湯山	20分	新法橋	50分	千早城	20分	千早登山口	40分	河内長崎	5分
高野線	約35分	南河内林	5分	千早登山口	15分	近鉄高田林	5分	阿倍野	5分	阿倍野	5分	阿倍野	5分	阿倍野	5分
千早登山口	15分	近鉄高田林	5分	阿倍野	5分	阿倍野	5分	阿倍野	5分	阿倍野	5分	阿倍野	5分	阿倍野	5分
南海難波駅	約50分	南海紀伊駅	20分	本掛	15分	山の神	50分	西の行者	40分	杉尾路	25分	大分峠	45分		
千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円
千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円
千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円
千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円
千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円
千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円	千早登山口	490円

初夏の山

特選 コースガイド

- ① 大平山
- ③ 登り谷源流尾根縦走
- ② 織山から安土城跡
- ④ 書写山から峰相山



初夏の山・雑感
 やわらかな陽光が徐々に強くなって、連休を過ぎると、もう暑く感じるほどになる。夏はあつという間にやって来る。そしていつの間にか山野の緑も濃くなって、私たちに涼しい木陰の山道を提示してくれる。
 山歩きを楽しむには四季の変化を敏感に感じることがある。道端には、初夏の花が咲き、へちややまのたぐい、生き物たちも活発に活動

初夏の山・雑感

やわらかな陽光が徐々に強くなって、連休を過ぎると、もう暑く感じるほどになる。夏はあつという間にやって来る。そしていつの間にか山野の緑も濃くなって、私たちに涼しい

この頃になると、藪の低山は遠慮して明るい山にあらがれる。山麓は蒸されるように暑い日でも、山に入ると爽やかになってくる。汗を思いきりかいた後の爽快感は何ものにもかえがたい。それでいて屈辱の利く山であれば申し分なし。
 そんな初夏の山にふさわしい山を求めて、よく比良へ行く。駅から早吉のそよぐ道を歩いて山道に入る。どのコースをとっても約2時間は汗のかき通し。所どころに遠大な歴史地を見つけて休憩する。そよぐくる風が心地よい。一杯のコーヒーがよい。
 今がマテ後線に乗れば明るい尾根道が待っている。巻道の道はまさに百花繚乱。シヤクナゲ、ヤマボウシ、ツツジ、ガマズミ、ウツギなど、初夏の花たちが、濃い緑の中に点々と咲き競い合い、目を楽しませてくれる。薄しい風が頬をなでてゆく。何となく至福の一時である。山の頂きは晴ますとも、既に大満足である。
 琵琶湖を見下ろしながら適当な道を下って帰る。今日もよい汗をかいた。そして少しばかりの疲れを感じながら駅に着く。駅のホームで電車の到着を待つ間、今日多量な汗をかくて帰ってきた。よく歩いたものだ。

たのしい山歩き

尾瀬雑考⑬

「心いためて」

松下 満

自然保護、自然保護と叫ばれ始めてからどのくらい経ったのだろうか。まじろは早く行なうは難し、が現実の姿のように思える。
 野辺の一粒の花にも命があり、葉しきがある。近畿の山をハイキング中にも、山野草を両手いっぱいにはり気味に持って、下山する姿に接することがある。その中で家や所られるのは何木か、ほとんどがゴミ箱へポノの革命と思われる。「やはり野におけ蓮華花」を思いだして欲しい。
 この尾瀬でも立入禁止地区へ入る人を結構見かける。危険防止、あるいは植物保護のため

めに設けられた場所なのである。
 私の一歩くらいは大丈夫と軽い気持ちで……。いまこの尾瀬で一番マナーの悪い人は、一部の人であるが、カメラマンと自称する人達とされている。カメラの三脚を固定するために道原に突きさす。構図が悪いと道原に入る。一人目録をつけることも同じことをし、やがて道原の破壊につながる。
 春秋、地元新聞「福島民報」が尾瀬特集を組んだ。その中に尾瀬の雄、晴波小学校の五年、平野望ちゃんの写真がある。それを紹介しよう。
 「私は、夏休みになると尾瀬湖の湖畔におるおぼさんの家（沼原そばや）に手伝いに行く。そのかわり尾瀬に咲く植物の写真を撮りながら、写真集を作っている。それは、私の一番好きな事である。いろいろな種類の高山植物を見ていると心がとても落ちつく、それに植物の名前を覚えるのがおもしろい。
 尾瀬には自然がいっぱいある。山は、季節ごとに、美しさを見せてくれるし、沼も変化してきれいだ。天気の良い日など、沼がキラキラ光っていて心に響く。
 沼のほとりでは、水鳥がきれいな音で鳴いている。そんな尾瀬の美しい自然にふれてみると、とつてもあつたか気持ちになる。だ

から、尾瀬はわたしにとって宝だ。
 その宝と想っている尾瀬を、心ないハイカーがかわして行くのを思う時、心がいたむ。どうして美しい自然を壊してしまう残念な人だらう。」（尾瀬民報より）
 少女の尾瀬を、そして高山植物を愛する心情が、私の胸を締めつける。
 入山者の増加は、微妙なバランスで自然を保っている尾瀬を破壊しようとしている。自然を残そうと思えば入山禁止が一番だと、人もいいる。だが現実にはこんな規制はできないだろう。
 でも、私たちが立入禁止地域へ無断で侵入一歩が、積もり積もって……。考えると恐ろしくなる。
 美しい尾瀬が見られなくなってしまふ。そんなことのないように心しなければ、とハイカーの一人として思いを新たにしたい。



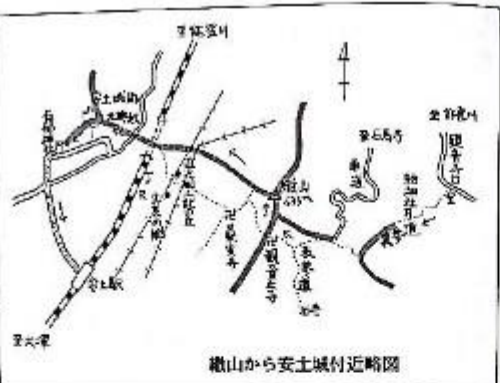
2等三角点のある山

織山から安土城跡

山形 歳之

西園礼所第32番観音正寺の山には、2等三角点設置されている。今回は川並から藤巻道を通って、観音正寺にお参りし、織山(観音山)から北に後線を縦走して、安土城跡に到るコースを紹介する。

JR能登川駅で下車。駅前から八日市行き
のバスで、観音寺口で降りる。バス停から家
内に従って西の山に向かうと、正面に大きな
石の灯籠が見えてくる。灯籠の南に石折する
と、結神社の鳥居があり、ここにも参詣道の
案内が書かれている。道は結神社の境内に入
ったすぐ左にあり、神の桐林の中を登ってい
くと、すぐ二つに分れているが、忠告塔の先
を急流するので、どちらでもよい。石段と丸
太が交互する幅広い道が、雑木林の中を登っ



織山から安土城跡近略図

初登山

今西 錦司
初期山岳著作集

新刊

今西 錦司著 四六判・二八〇〇円
京都北山は難なるかな
15歳の富士登山から29歳まで、京一
中、三高、京大時代の山岳著作を未
発表原稿も含めて網羅。

ヒマラヤ山河誌

新刊

諏訪多 栄蔵著 菊判・七五〇〇円
深田久弥の名著「ヒマラヤの高群」
の最大の協力者、ヒマラヤ山岳学
の先駆的存在である著者のヒマラ
ヤ登山の実験・研究の集大成。

ナカニシヤ出版

京都市左京区吉田二本松町2
電話 075-751-1211 〒606

ている。
秀々に石仏や石の立つ、本宮に参詣道と
いった様やかな道だ。やがて右に石馬寺か
らの古道が合流してくる。車道にはチェーン
が張られていて、車はここまでしか入れない。
砂利敷の車道をたどると、南の樹界が覆って、
田畑と共に参詣道の雑落が、広がって見える。
お寺の境内に入ると、工事中なのか参詣道が
柵に囲われて、人ひとりがやとと運れるくら
いの通路が作られている。いかに境内が明る
い。よく見ると何と本堂が無くなっている。
建て替えてもするのだろうか。折から雑落を
していた寺垣の老人に尋ねると、平成5年5
月22日に焼けてしまった。原因は不明との
話である。大きな看板には、十数箇所の修繕費
用が必要と書かれている。これでは益分お寺
は建たないだろう。木々の千手観音も焼失し
たのだろうか。本堂跡の横には、真つ思ひ
の木が山のように積まれてあった。

「北の参詣寺に行くのなら本堂跡を通って
行きなさい。横の道は通行できませんから」
と言われて、雑落に片付けられた本堂跡を抜
けると、道標が立っていた。「三角点」と大きな
文字で、右への登り道を指し示している。わ
たしの有名な三角点「マヤナラ」ともかく、三
角点とは何と単純な標示板なのだろう。織山
ネルを乗り越えて北麓越えの車道に降り立
つ。
さて安土城跡への案内板は、車道を西へと
示しているが、直線山に取りつくことにする。
車道を横断して、一軒の建物の前から雑落を
登る。石碑が小山のように積まれた頂を抜けて、
林の中を進むと、右に小さな本堂があり、
山道は下り坂になる。ここから右手に急な
石段があり、登って行くと次々と石仏が現れ
る。やがて石仏が途絶え、植林の中の梢
越しに大きな感塔が現れた。覆られたローン
を越して、石垣沿いに左へ回り込むと、工事
用の柵が置いてあった。どうやらこの道は
光客が送らぬまじようには止められているら
しい。
石垣に囲まれた広場は本丸跡で、すぐ上が
天守閣跡である。裏側は天守閣の石垣の一部

という山名が地図にも記載されていることだ
し、せめて観音寺山とでもして山名を表記し
て欲しいものだ。
竹林の中を登って行くと、右手に建設中の
中継アンテナがあり、その裏のピークに登り
着く。ここにも三角点の遺標があり、後編の
道となる。小さい上り下り少しで三角点に到
着する。

周囲の穴に造られて風通はあまりないが、
北の大、地蔵越えに延びる尾根、西の安土
方面がわずかに望まれる。2本の標石を確認
する。西に少し離れた大石の上には、紅白のボ
ールが立っていた。
道はここから二方向に分かれる。右は地蔵
越えだが、真ん中は後田の雑落へ、そして左は
参詣寺へ向かう道である。
道標に従って参詣寺への道を下る。やがて
道が二分すると、参詣寺への道と分かれて右
へ。近江風土記の丘に向かうと、地蔵越えを行く。
両社線の線路が見えてくると、近江風土記
の丘への道は左下へと分かれていく。眼下
には立派な、安土城文書館の御影の建物が広
がっている。時間があれば見学して行くのも
よいだろう。
尾根上の道を直進して、安土城跡に向かう。
雑落の石仏に迎えられるが、JRのトン

からわずかに雑落が望まれるのみで、あま
りよくはない。二の丸には同様の参詣があり、
西に下ると、三重の参詣と正門を通って右の
神社の前に出る。
後は下り道の雑落を抜けて、JR安土駅に
降り着く。駅前には参詣道を観光案内所があり、
地図等の資料が貰えるし、隣には茶室なるみ
やびもの屋や、飯沼資料館などもある。

このコースは山以外にも、お寺や雑落、資
材館等もあり、山と共に一日ゆっくりと楽し
むことが出来ただろう。
ハコースタイム▼
JR能登川駅 穴スリを 観音寺口(4分)
観音正寺(15分) 織山(30分) 北麓越(30分)
安土城跡(40分) JR安土駅
地形図 2万5千1:18000

忘れられた存在

登り谷源流尾根縦走

上級コース (★★★)
岩野 明

甲津畑の横を流れる登り谷の源流尾根は、鈴鹿でも近いわりにはほとんど知られていない。甲津畑の喜尾根から喜王子尾根、そして総本山喜尾根、イハイガ岳(964m)、登り谷のゴルから向山(930m)と続く縦走は、忘れられた存在らしく全旅人が入っていない。現在、鹿、カモシカ、猪の楽園になっている。特にこのコースにはヌク場が5か所もあり、その中でも向山のヌク場は約1坪もあり、一見の価値がある。一部雑木のブッシュもあるが、地味を認んで進めば迷うことはない。古い道はけもの道のようにではあるが、かなり残っている。変化に富んだすばらしい場所があり、十二分に楽しむことができる。

甲津畑の奥、登り谷入り口に駐車可能な広

場があり、車を利用する。谷に入る林道を進むと、杉木立の中、右に登る道がある。奥に巨大な砂防ダムがあり、ダム右上の道を進むと、杉木立の中を谷に沿って回り込んだところから、右へ急峻に登る喜尾根の巡視路がある。喜尾根は喜王子尾根に続いていて、尾根の巡視路はほぼ整備されている。急峻な尾根は二次林に変わる。春にはこの道筋でヤブレガサの群落が見られる。鉄塔の下に出ると展望もよくなる。さらに鉄塔に沿って進むと、西斜面は袖林した尾根に変わり、八日市方面の眺望を楽しむことができる。頂上直下で道は尾根の腹を巻いて支尾根に繋がっている。この支尾根を左に進むとガレ場の上に登り、道は多少ブッシュになりはつきりしないが、ガレ場を過ぎるとはつきりした尾根道が現れる。正面に向山の緩傾と登り谷のガレ場からイハイガ岳を望むことができる。さらに進むと喜王子尾根の手前樹林の中にヌク場があり、喜王子尾根登山道に合流。左に進むと岩場がある。ひと休みして、これから登るルートを確認するのもしよい。

いったん下って、急坂を登り964mのピークを過ぎて、次の急な登りになる手前直前にテープの目印がある。ここからのイハイガ岳の西にある草原へのトラバースルートは、

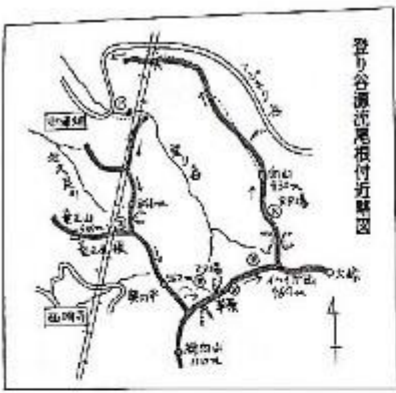
草原からイハイガ岳・ダイジョウ・雨乞岳を望む



平成5年12月13日に発見した。何回も通りテープで目印をつけた。テープを頼りに進むと炭焼き窯の跡があり、支尾根にヌク場がある。落ち着いた樹林が続き、やぶは全然ない。ヌク場から草原まではつきりしたけもの道が続く。急な坂を登るとガレ谷があり、その上を進み、クマ笹を回り込むと草原の広場に達する。更に進むと目の前に草原が広がり、登山道に出る。気持ちのよい草原は360度の展望を

楽しむことができる。後ろには巨大な乳房の形をした御向山が見える。御向山東尾根の笹原の山を眺めるとまるで女体のような。びわ湖方面、ダイジョウ、雨乞岳そして鈴鹿の山々と展望が広がり、春は草原に香リンドウが咲いている。

イハイガ岳は目の前である。登山道を進むと二次林に変わる。鞍部の左にヌク場があり、尾根にはイワカガミと石楠花が地えてくる。イハイガ岳の頂上は樹林の中で展望は悪い。頂上から北に下ると支尾根が現れ、右斜面が草原に変わる。草茎をストレートに下り、



登り谷源流尾根付近地図

左のガレを横切って支尾根を下ると、登り谷のゴルに着く。右斜面のガレを横切って向山に延びているけもの道がある。この道を進みガレの上のピークに登ると、灌木と草のすばらしい台地に着く。眺望が一気に開け、巨大な雨乞岳・イハイガ岳から御向山の緩傾、特に登り谷の巨大なガレ場が眼下に広がり、その中をけもの道が幾筋にも延びている。

ここから向山までは、灌木のブッシュに変わるが、古い道がほぼ残っている。向山の手前で台地状の尾根に変わり西へ約90度曲がる。鞍部の奥に巨大なヌク場がある。ヌク場から先は道が消えて広い台地の灌木に変わる。約10分も進むと、大きなアカマツが現れる。向山の頂にはつきりしない。さらに進むと右に回り込むと尾根にのる。所々消えているが、古い道が残っている。2つ目のピークを下ると、杉の樹林に変わる。杉木立の中を右に下ると広い台地になり、左から登り谷の支尾根が入っている。谷を越え広い尾根を進むと、右に下る道がある。うっそうと茂る杉木立の中を右斜めに下って行くと、広い台地に着き尾道に出る。この道を尾根に沿って進むと、明るい尾根上の鮮やかな場所に出る。ここから左斜面は杉の樹林、尾根上と右斜面は樹の樹林で打ちわらわっている。その中を尾根に沿って歩

きやすい右側を下り、下り終わったところで左下出ればつきりした尾根道に出る。目の前に鉄塔があり巡視路に変わる。鉄塔の下は展望もよく、歩いたコースが確認できる。次の鉄塔から巡視路を右に下るとフジキリ谷の林道に着く。途中杉を伐採した跡筋にシゴクノカマノフク(医書殺し)と呼ばれる毒草の群落があり、春には小さな紫色の花がいつぱい咲いている。

アドバイス

①暑い時期には登り谷の通行を避け、ゴルから向山又はイハイガ岳を回ることもできる。

②安楽に楽しむ場合は、奥の平まで車で入り、向山のヌク場まで歩き、引き返すのもよい。

ハコースタイム

- 登り谷取付点(2時間) 喜尾根(1時間)
- 草原(30分) イハイガ岳(20分) 向山(40分) ヌク場(1時間30分) 鉄塔(20分) フジキリ谷(40分) 取付点
- 地形図 2万5千1:1日野東部

姫路の吉陵山地縦走(その2)

書写山から峰相山

初級コース(★) 須磨岡 輯

1 及姫路駅前からバスに乗り、登山口の書写吹まで約25分。途中、夢前川沿いを走るようになると、草窓から書写山ロープウェイのゴンドラが見える。山上には、西の比叡山とも言われる西国霊場霊場霊場霊場の書写山円教寺が開かれ、多くの参詣者がロープウェイを利用して、願掛け・集印に訪れている。書写吹バス停下車。登り口は「竹居ぶつたん区」の看板を見て、肩の着手にある細い道で、今回登る「たんじい道」である。この道は、その昔、円教寺で願を掛け、幸く次の霊場礼所の天の橋近く成相山成相寺へと通じる巡礼の道として、多くの人たちが往來した歴史ある参詣道である。歩き始めてすぐの二差路は直進し、灌木の

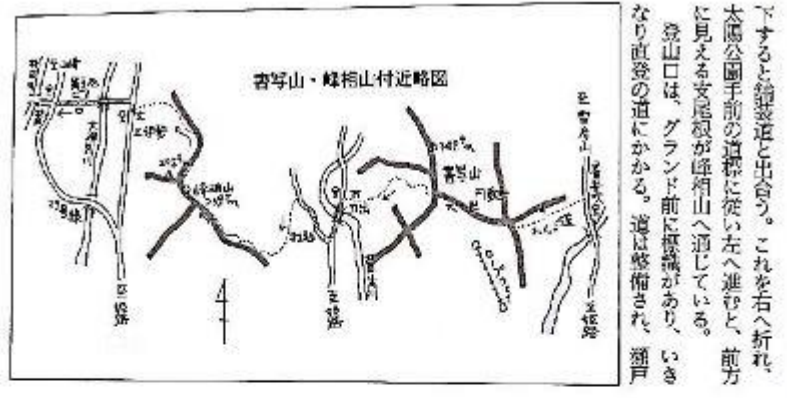
中、山腹の程よい登りが続き、傾斜が緩やかに進む。石仏が石壁に彫り込まれた広場に着く。廣島の雑木が切り開かれ、先づ茶室が介した広峰山城と水空池が見え、その手前に夢前川の流れが垣める。ひととき入れば出立する。地元の人達の奉仕で道はよく手入れされ、両脇に五輪や古仏が並び、過ぎし古に思いを馳せながら進む。やがて竹林が現れ、書写山円教寺の寺域に入ったことを知る。まもなく飯の下りになり、杉の大木の中、木坊屋を抜け、湯屋橋の「はづき茶室」前に入る。茶屋の長椅子で一服しながら、往來する参詣者を見やりと眺めるも、茶室名物の「大福もち」をほおばりながら、湯米の接待を受けるもよし。

汗が引いたら山腹自然歩道の標識に従い開山堂(庚の隠)へ向かう。山上は準平原の姿を今も残し、起伏が小さく丘陵としては最悪地である。平地地に建つ御堂や御堂を自給しながら進むと、開山堂前の標識に着く。ここが、又出へ下る自然歩道と分岐へ下るコースとの分岐点である。又、二角点へ(49・9分)へは麓線コースの途中から行右軍の本内坂に突いて灌木帯を登り、三角点には灌木にさえぎられ、視界が利かず鞋刀を感じない。往復すれば20分かかる。

峰相山中腹より書写山を望む



開山堂前の道標に従い、円教寺の寺域に別れを告げ、又出立路へ通じる「又出立路」を下る。まず、雑木の谷筋を歩き、次いで雑木との混交林、足元には巨岩の塊が名残りの石垣も現れ、歩きやすくなる。山腹近くは雑木の中、道道となり、谷も広く小流も現れる。陽光も明るく、しばらく定歩を歩くと、山裾に広がる住宅団地の裏手に出る。団地内を抜け、御道前に設置された「又出立路」前へ出て左へ折れ、すぐ宮前川に架かる樫谷橋を渡り、さらに樫谷を反対側へ渡り、湯屋橋を南



内の明るい陽光を受け、低木の雑木帯を進行し、時折、グラウンドの高校球児童の元気なかけ声が聞こえる。右半の村こしに万単の茶畑や畠間のミニテニヤが望める。登りが緩くなる。峰相山との分岐に着く。峰相山へは急坂の下りで、老人ホームと太陽公園へ通じている。山頂が近づくと登りは緩くなり、両脇に平坦地が現れる。ここは、その昔、奈良時代に峰相山浄土寺が開かれた所で、300余の堂宇、伽藍、僧坊が林立していた、と室町時代に書かれた『室相記』にある。まもなく峰相山の山頂(233・7分)の標示板前に着く。山頂を少し登ると平坦な雑木林となっていて、視界が利かない。元の標道へ引き返し北上する。短い下りを登って次のピークが三角点(245・4分)との分岐であるが、不明瞭なので見逃ささないように注意しよう。三角点往復には15分をみておこう。この分岐を過ぎるとまもなく急坂の下りとなり、足元に露岩が現れ、先には砂利のついているので十分注意しながら歩こう。尾根の延びた先に伊勢山の始末が、左手に上伊勢のひなびた風景が広がり、そのはるか先に現れる山(458分)が望める。しばらく露岩の多い道を下り、小さなコブを登りきると上伊勢への分岐点に着く。標標をはずれ下りにかかり、植林

されず間もない谷筋を下りきると、伊勢小学校の横に着く。学校の裏道に山腹自然歩道の案内板が設置され、ここが上伊勢からの登山口となっていることが分かる。学校前に上伊勢バス停があり進路へ通じているが、午前、午後ともに一歩しかなく、利用出来ない。先に進むが自然歩道を林田町のバス停まで歩くことになる。上伊勢温泉を抜け、地蔵のあそび場を過ぎ、改修されて間もない獅子池を右に見て舗装された出立路を歩くと、このコース終点となる林田町の家並みが見え、まもなく国道29号線の林田バス停に到着する。

- ハコースタイム
- 書写吹バス停(20分) 石仏(20分) はづき茶屋(10分) 湯屋橋(10分) 開山堂(25分) 又出立路(25分) 峰相山登山口(25分) 峰相山分岐(10分) 峰相山頂(10分) 三角点分岐(35分) 上伊勢登山口(25分) 林田バス停
- 地形図 2万5千1:1 肥野・姫路北部
- 5万1:1 肥野
- 費用 姫路1書写吹3400円 林田1読路6400円
- 書写吹へは湯屋バス本末明千丸姫路駅北側から三差山、前之庄、山の内行きに乗車。

山岳夜話 (第3回)

小泉誓純

再会 (一)

ザックを鞆に掛けて平楽院へ行く。同体客が多くいた。その一つに扮れ込んで、ガイド嬢の説明を聴き取って来た。

池には、明らかに過密状態と言えぬ舞が泳いでいたが、そのどれもが顔無状態で、あの野雞のスマートさと敏捷さは見るかげもなく、はくには多クステータスな動物にさえ見えただが、世の中はいろいろで、それでもかわいと思える人がいるもので、顔を賣い与えていた。その顔に醜態もなく食いつく難を、早くは、人の世の、特に一部の政・財・官・学、界の、そしてさらには、中小企業のおーナーにいたるまでの、あさましいまでの貪欲そのものを原る思いで、しばらく黙って眺めていた。

奈良駅でいくつかのビジネスホテルに電話をかけてみると、幸いにして、極楽神宮前のホテルに二つの部屋を隣り合せて取る事ができた。

そこから下市口までは、わずかの時間で行けることを彼女に説明したのち、みやげ物屋が並ぶにぎやかな通りを、近鉄奈良駅の方へ歩いて行った。彼女は、旧式な荷物に抱かれてある南都銀行の看板を指差して、「旧校の修学旅行の時にね、わたし、あれを見てみんなに「何と絶行」と言ったら、すっごくワケたのよ」などとはしきながら歩いた。

西大寺で乗りかえて、終点の極楽神宮前で降りると、目指すホテルは、駅から五分ばかりの所に、ひっそりとした広い道路に面して建っていた。朝食は、ホテルのレストランでとることにしたが、夕食は、外へ出かけるこ

とにする。

「少し休憩してから出かけよう。出かける前に電話するけど、夜行列車で使われているだろうが、眠ってしまわないよ」

「はい、わかりました。じゃあまた」

外へ出かけてみたものの、いわゆる田舎の「食屋」のような店しか見当たらず、飲みながらゆつくりと食事を楽しめそうにもないのが、入る気がしない。ホテルのレストランへ戻るほうがまだましかと思案しているとき、彼女が「久しぶりにお好み焼きを食べてみたい気もするけど……」と言った。

そんな店にアベックで入る柄でもトシでもないのに、少々恥ずかしくもあつたが、入ってみることにした。

ビールとチューハイを飲みながら、彼女は問はず語りに、半井時代や家族のことなどを陽気に話した。

彼女は昨年末に東京から長崎市へ帰り、両親と郊外に住んでいる。ほかに三〇歳の兄がいるが、また親身で、東京で大手商社に勤めている。父親は五〇代の後半で、長年勤めていた地方銀行を定年退職して、今はその関連会社に勤めている。父親は三男で、多くの兄弟がいるが、その半数以上が九州で暮らしており、父方の祖父も健在で、本家で長男と

暮らしている。

彼女は小さいころから、兄と共にピアノを習っていて、小学校の何かの催しで兄と合唱したこともあり、週一回の全校の朝礼時には校歌の伴奏役をさせられていて、クラスらしい女友だちから、「あなただけ坐っていられて、いいね」とうらやましがられたこともあつたと笑った。このほかに縦笛も好きで、一応はできるそうだ。

高校では音楽部でドラムをたたく一方でソフトボール部ではキャッチャーをしていた。彼女の県立高校では、T大に入るのは学年に一人くらいで、それが象徴しているように、彼女もまた、真剣な受験勉強と言えぬほどのことはしなかったそうだ。そのような事情と、「浪人はさせない」と親に言われていたこともあって、短大も一つ確保しておいたが、大卒のほうは、二つの女子大の文学部と、兄の通っている学校の文学部と政経学部を受けて、合格したのは一つだけだった。そして結局は政経学部に入った。

もともと男のほうはほかに多い学校であるうえに、学部が学部だけに、男の学校へ入ったような感じで、ワングル同好会で女子が少なすぎたので、女子大のワングル部員にも、特別に合同してもらつたことがあるほど

だった。

ほくは、彼女がワングル部の出身である、と聞き違いをしていたことば、この時気づいた。

就職してからの仕事のことでは、お姉さん社員の何人かにいびられた程度のことのほかは、これというほどの思い出もないことだった。

「兄貴のいる学部へ入つたというわけか？」
「兄貴は商学部のな。……でも、何となく兄の行つてる学校へ行つてみたいという気もしたの。兄貴からいろいろ話を聞いてたから」
「何年一緒だったの？ 学部は違つたにして」

「一年だけ。……それは、学校ではあつたに会わなかつた。たまに学校の近くの喫茶店や書店で会つても、お互いに友だちも一膳のことが多かつたから、兄貴もこっちも、お互いに知らないふりしてたの。ツフツ。下宿も別だったしね」

「ハハハツ、お互いにツシシになるよ、おかしいんだねえ。ほくには味はないが、多分そうしたらどう思うかな、そんな場合は、フフフ」

父親は、絶対にしないで、寝る前までビールを少し飲む程度で、母親も兄も、飲めないに

等しいとのこと。だが、彼女は母親と二人だけの夕食時にビールが焼酎を飲むことがあり、その時は勢気になって饒舌に、吐瀉するので、母親からアル中だからとかわれたこともあつたと笑つた。

「キミは絶対に強いようだねえ。さすが九州貴族さうだよ」
「ウチモ、マケルゾ」
「ハツハツハツ、イントネーションが全然なつてないよ」

「やつぱりダメか。……ホナ、イチマヒロカ。これもダメメエ？ ウフツ」
「今は少しマシだったかな。じゃあ、ほんとは行つた」

ほくは笑いながら立ち上がった座敷を降りた。歩きながら、朝は七時起床と決めて、念のために早くモーニングコールすることにした。そして、もし彼女が七時よりも早く目覚めた場合は、早くてもかまわないから、コールしてくれるように頼んだ。

「それはあり得ないと思うけど、わかりました。じゃあ、おやすみなさい」

やはりほくのほうが早く目覚めた。天気は上々だ。時間を節約するためにザックをか

ついで一階のレストランへ降りることにする。彼女は洋食を、ぼくは和食を注文した。

「わたし、頭が少し重くて、足がたるい感じ」

「少し飲み過ぎたんじゃないのか？」

「そうかもしれない、早く寝なきゃあと思っ
ても、寝つけなかったものだから、水筒に入
れて持って来た焼酎を、何度も起きて、少し
ずつ飲んだの。……焼酎は全部空けちゃった」

「えーっ？ 全部？」

「全部といっても、汽車の中でだいぶ飲んだ
から、750ml入る水筒の半分くらいしかなか
ったと思っけど……」

「夜行列車で寝れてた筈なのに、すぐに眠れ
なかったのかあ」

「最近、朝方まで本を読んだり、FMを聴
いたりして、時間の面では、ウォークターフ
ロントみたいな状態だったからかあ」

「何だ？ それは」

「ウォークターフロントって、知らない？」

「勿論、今はやりの経営用語としては知って
いるが、適度娯楽という意味でならぬ。しか
し今、キミが言ってくる意味は、さっぱりわ
からないよ」

「あのね、ウォークターフロントっていうのは
ね、水筒売に入る寸前の女の子のことを言っ
たの」

「ハッハッハ。朝っぱらからバカなことを言
うな。……それにしても、面白いかと思
いつくやつがいたもんだなあ。キミは暇を時
間割がずれてしまっているんだろ。駄目だ
ぞお、そんなことじゃあ。大膽に背けば、身
体を悪くするぞ。水筒売をしている人なら、
やむを得ない点もあるだろうけどお」

「そうねえ。……わたしが酒場に動いたら、お
客が来なくなったりして、ウフフツ」

「学生や若いサラリーマンが普通のような店
のカウンターにでも、お入りになってみた
ら？ ユニークで面白いかもしれないぞ、
フフツ」

ぼくはその日の行程を説明した。

川合から歩いて橋匠辻、換辻を経由する方
法のほかに、川合または洞川のタクシーで行
き越すトンネルの入口近くまで行く方法があ
り、前者は健康向きで、後者は初心者ないし
一般向きと言える。大川口経由の後者のコー
スも、かつては川合から歩いたものであるこ
とも付け加えた。

「どちらでも、キミの好きなほうを選べばい
い。但し、タクシーが今日必ずあるとは原ら
ないよ」

「わたしは散歩コースがいいよ」

「ハハハッ、わかったよ。下市口からなら、

健美にタクシーがあるんだぞ」

「でも、さくさく歩くといいよ？」

「勿論だ」

「高いのはイヤノ、なにしろ失業中なんだから
の」

彼女は笑いながらそう言った。そしてぼく
は、ずいぶんのんきで明るい失業者だと思
った。

川合でバスを降りて、駅前の貸室から電話
をかけてみると、タクシーは出ていて、いつ
戻るとも、はっきりと応えられないという返
事だった。

行き先とこちらの名前、居場所を伝えて腰
をかける。おでんで一本のビールを二人で飲
み、めん類などで腹こしらえをしながら、思
み少ない古報を待ったが、食べ終えたのちに
も、同じ返事だった。

ぼくは電話口から海の方へ戻りながら、
ニヤニヤとして言った。

「今日はもう諦めて、歩いたほうがいいぞ」
「ハハーノ、もうここで一泊したくなってき
た」

から歩けば楽だぞ。朝のタクシーを今から手
約しておく手もあるしね」

「冗談よ。随分も良くはないけど、いくらな
んでも、それではあなたに悪すぎる」

「選べるならいいぞ。ほんとに今日やる気が
あるのか？ 長いんだぞ」

「うん。行く」

「じゃあ10分後にデッパツする。水を1Lは
入れておけよ。狼平まで水筒はない」

「甲子橋を渡って村の中を通り、民家の裏手
から取りつく」

「ここから、前を歩いてくれ。一本道で歩い
てはいけない。ぼくのことには気にせず、キミのペ
ースでね」

「はい」

彼女との山行は、実質的にはこれが初めて
のことである。ワングルの同好会とはいえず、
その出場で、且つ年齢差が約一まわりである



え

ことから考えれば、常識的には、彼女のほう
が強いと判断するのが妥当というものだろ
う。だが、ぼくはその日、別の判断をしていた。
彼女の卒業後の山行は、女の単独行が中心
のために、もっぱら民宿や貸室小屋を利用し
てヒークを稼いできた。したがって、卒業後は
民宿をかついだこともない。また長距離の旅
走を要する有名で高い山々は、学生時代にト
レース済みのため、その後は行っていない。
そして今回は大陣だけではなく、他の山も極
く予定のため、口ごとの彼女にしては重い荷
物をかついでいる。そこへ少々の飲み水まで
心ならずも長いコースを歩くことになってし
まった。これらのことから推し計れば、今回
は、体力面でぼくと五分五分だろう。ならば
経験の差と、コースを熟知している分だけ、
こちらに余裕があるだろうと判断していた。

「あなたはここを何度くらい歩いたことがあ
るの？」

「さあ……すぐには言えないなあ。……普通
期にしかきりに使ったことがないような気が
するし、下りは当のある時にも、何回も通っ
たことがあるしね。無難期には、主に沢登り
のあとの下山ルートとしてね」

彼女のペースは、思っていたよりもずいぶ
んゆっくりだったものだった。だが、元来ガツ

ガツ歩くのを好まないぼくには、それは苦痛
でもなんでもなかった。必要にせまられて、
ずいぶんとはしたことも、過去には勿論教え
されぬほどあるにはあったが。

「わたし、遅いでしょう？ 卒業してからは、
いつものんびり歩いてたから、ほんとにそれ
しかできなくなってしまったみたい。……そ
れに、もうオバサンだしね」

「まだそこまではいかなさう」

「でも、学生くらいの子から見れば、もうオ
バサンって言われる、ハンなのよ。二十五も過
ぎたら」

「そんなもんかあ。さくさく知らないが」
「こんなペースでいいのかしら。……あなた
前を歩きますか？」

「いいよ、このままで。ぼくが前を歩いたら
離れてしまおう」

「……か適当な所で、時々タバコでも吸いな
がら待っていてくれたら？」

「それなら巡回回したよ。ぼくのことには気に
せずマイペースで歩けよ。登る前にそう言
ったたろう？ 山登りなんていうものは、タ
方まで歩いてそこで寝ればいいんだよ。どて
てであらう」

「ほんとにそう思ってくれてるの？」

「……」

（実行へつづく）

地 鐵線北谷 再建公園 学舎の
森 森林植物園 山田道一 学舎
(約10) 家族向 車本番線078(5)
2(1) 03321

山陽線

山陽ハイキング「ふじの浜の故
址」ハイキング 5月15日(日)東条
二里駅10時(コース)東一里一粟
師降一住吉神社 遺蔵の家並一浜
の故歩道一林崎松江海岸(約10
分)家族向 山陽線ハイキング係
078(941) 6915

山陽ハイキング「折引の滝・七
三峠ハイキング」5月22日(日)東条
R新神戸駅10時(コース)新神戸
駅一折引の滝一市が原一分水嶺
一修法が原一七三峠一木松林道
一花塚駅(約12分)一般向 山陽電
鉄ハイキング係078(941)
6915

山陽ハイキング「鉢伏山・転法
輪寺ハイキング」5月19日(日)東条
臨海公園駅10時30分(コース)須
磨浦山上層空閣閣一鉢伏山一おら
が山一栗木駅(約8分)家族向 山
陽線ハイキング係078(941)
6915

三岐線

▽新緑の鉄道ヶ岳登山 5月15日
白雨中止 集合近鉄三岐山陽三岐線
ホーム8時(コース)近鉄三岐山陽
大安駅一朝明ヒュッテ一鹿鹿谷
一松原宿根原一釈迦ヶ岳一羽鳥
朝明ヒュッテ一大安駅一近鉄山
田駅(約11分)一般向 会費2000
円 パス台1000円 小人500
円 定員100名 予約申し込み制
運賃別途光係05993(64) 2
141

▽緑の竜ヶ岳登山 5月29日(日)雨
天中止 集合近鉄宮田駅三岐線ホ
ム8時(コース)近鉄宮田駅一太
安駅一宇賀溪キャンプ村一ホタガ
谷一竜ヶ岳一石神峠一小峠一長尾
澤一五箇瀬一宇賀溪キャンプ村
一花塚駅一近鉄宮田駅(約14分)一
般向 会費2000円 参加自由 運
賃別途光係05993(64) 2
141

▽宇賀溪砂山ハイキング山沿いコ
ース 6月12日(日)雨中止 集合近
鉄宮田駅三岐線ホーム9時(コー
ス)近鉄宮田駅一大安駅一宇賀溪
キャンプ村一山道一五箇瀬一長
尾澤一砂山道一砂山一宇賀溪キ
ャンプ村一大安駅一近鉄宮田駅(約11
分)

▽金銭をのり、参加自由、運賃別
光係05993(64) 2141

奈良線

▽万葉の大和路を歩く会「五深の
都・山背仁京」5月8日(日)
集合近鉄高の原駅バス乗り場9時
30分(コース)高の原駅一和泉宮
安原寺一草一春仁一高天原一山
背国分寺一志仁一木一近鉄奈良
駅(約6分)家族向 高天原女子大学
教授清原和隆氏

▽万葉の大和路を歩く会「主甲の
乱をゆく(蒲生野と不破の関)」
6月12日(日)集合天理駅10時30分
(コース)バスツア一天理一上
野市安楽寺一鬼室神社一蒲生野船
岡山一阿賀神社一阿賀神社一玉
倉野色一不破の関一高天原一木
一伝言堂一峰一光原一奈良会費35
000円(会費59000円) 講師甲
陽学院高校教諭山内英氏

○右は各年申し込み制で、一週間前ま
でにハガキか電話で、奈良交通万
葉の大和路を歩く会(0742)2
3100。〒690奈良市中大
宮町1-1の25まで。

□これ以外にも多数の申しがあり
ます。各社の広報も見て下さい。

尾城、平ヶ原神社とつりの山小屋
三山見送園公園内

清四郎小屋

ほんもの手打そばと元治そば
〒946 新潟県北蒲原郡山
02579131 23336
02579131 23336
または 22150926

海

汗をかき流せる温泉と
笹ヶ峰牛のシヤブシヤブ
日本海の鮮魚と山の幸
ハイカーの宿

ナガサキロッジ

〒949 新潟県中蒲原郡
妙高町時地の平温泉
02551861 22261

新山の花、温泉の花

新高井中蒲原郡妙高町
池の平温泉 ナガサキロッジ
02551861 22261

黒沢池ヒュッテ

〒949 新潟県中蒲原郡
02549121

国民宿舎 大佐渡ロッジ

〒952 新潟県南蒲原市
025592171 45770

やさしさ

題字・小林政雄三

六甲山の一角三ヶ所点について、
非常に目立ちにくいところを、これ
書きました。また国土地理院は地
方別産物にも、モニメントを
三ヶ所点と指定した写真を掲載し
ていて、その産物のコピーを送付し
て、寄贈して下さるものようにし
れていました。

早稲、田舎朝霧が広がって下
さり、10月16日に三ヶ所点のそばに
別の白い表示板を建てて下さり、
写真まで添えて、新緑のお手紙を
頂きました。

これで六甲山の一角三ヶ所点も、
モニメントに主役の座を奪われ
ることはないでしょう。ところで
白い表示板も三ヶ所点の所在を示す
大切なものです。引き抜いたり下
たすやなごせず、大切にしてい

さるようお願ひします。
(留置佐次 監)

お正日はとても混雑するのであ
まり出かけないが、このたびは母
18切符を利用して東京までかけ
た。

横浜の岳友の家に転がり込んで
三浦半島の城ヶ崎や油壺の遊園地
に遊ぶ。

それでも三ヶ所の三ヶ所点や油壺の
観音所、基本水産物を身運まな
のは、我ながら病い喜びである。
その中の一日を利用して東京の
新ハイキング社を訪ねる。目的は
山用品を買うためである。オーロ
ンTシャツ・折り畳み杖・フー
付ソックス・合本ファイル
それから出たばかりの日本三百名

山ガイドの本を買う。

一言をする訳でもないが、杖は
小さく折り畳めて軽し、もう若
くもないわたしには非常に使いや
すく重宝している。フード付きサ
ツカカバもなかなかのアイデア
商品で、大変面白い。又合本ファ
イルは関東版をお読みの方は御存
知のことと思いが、関西でも出
て買えれば、御神ではないかと思
う。(山形 政雄)

1月23日、明神平から新屋へ登
る予定であったが、大又林道が庄
崩れのため急ぎよ伊勢山へ。
総勢約120人の一行は3言の
バスに分乗、大又林道に到着。
一日中粉雪が舞っていたが、風
もなく真新しい雪を踏みつつ進ん
でゆくと、だんだんと砂礫のよう
な雪になり、サクサクとした心地
よい音が響いてくる。

食後すぐアイゼンを付けるが、
指がかじかんでなかなかうまく付
けられない。

やがてあたり一面に輝氷の世界
が開けてきた。薄間の雪の花が雪
そうにおちさがり、上の方に目を
移せば霜柱が広がっているよう

休憩飲食入浴も歓迎
10名以上マイクパスで送迎
箱根石原温泉

箱根石原温泉

〒257000 神奈川県石原町下
箱根町石原139
04600141 9041

四季織りなす乗鞍高原のハイク

上高地・乗鞍岳へ 冬はスキー
けやき道りと味の楽・日帰り
温泉旅館 けやき山荘

温泉旅館 けやき山荘

〒39015 長野県乗鞍郡乗鞍温泉
02631931 2555

さわやか温泉

山吹の湯
湯田中温泉(穂波)

日野屋旅館

〒380104 長野県上高井郡
山ノ内町湯田中温泉穂波
02691331 3578

高峰温泉

〒3384 長野県小市町高峰温泉
025671251 2000

に見える。
私は初めて見る霧水に唯々声もなく見とれるばかりで、想像以上の美しい景観に深く感動した。
頂上を目前にしてタイムオーバーで引き返す。あまりの素晴らしい景色を忘れていたが、水筒が5度まで凍って又ビックリ。
そして心配したほどのこともなく全無事予定通り下山することができた。
前田 幸平

2月17日、山仲間2人と比良山系のコヤマン岳に、テント泊の山行。
スキーゲレンデを過ぎると、期待(?)通りにワカンを着けていても、腰まで入るほどのラッセルで、場所によっては胸近くまで濡る。雪山の距離十分で悪路苦悶の末、なんとかコヤマン岳と美奈ヶ岳を結ぶ尾根に到着。コヤマン岳山頂ではテント設置後も、雪は小降りになったものの強風がおさまらず、食事後はそのまま寝入り。その夜の新雪は15cm前後で、気温は氷点下7度。テントの中の水筒のお茶も一部凍結。
翌日は6時45分起床して9時30

分に武蔵ヶ岳目指して出発。昨日つけたトレースはきれいな雪ばかりと消えていた。比良山系の最高峰と二番目の高峰に、その日最初のトレースをつけたことに感激しながら下山。(較弱にも、往復ともフリー・ロープウェイを利用した山行でした)。
前田 幸平

2月13日の山行例会に参加した。今年一番の雪となり、周辺の日々はすっかり雪化粧。見沼門橋バス停付近で、全員スパッツ、アイゼンを装着して沢ノ池へ出発。険しい所もある見沼門谷の道だが、リーダーが樹木の雪をはらったり、渡渉地の雪カキをして下さる。危険箇所では安全確保のため、ロープを張っていただいた。後ろに続く我々は、岩棚からの1級坂道もあるところを登って手にした。新雪を口に頬ばったりと、山の真冬を満喫しながら歩く。
沢山を歩いた。沢ノ池風景は期待以上。降雪は積雪を浄化するので空気がうまい。積雪は音を吸収するから凜とした静寂がある。ここを見ることも、雪の原っぱを見れば、池の畔の雪原

で、重心に返って歯合戦が始まる。なかなかの豪雪が、飛び交い、皆さんお着意。
峠を越え白砂山を前にした栗原を越えて御三へ降り、仁和寺の本店前でお待ちしている山行でした。
前田 幸平

二月山行報告
6日 伏見公民館アウトドア・親子アウトドア会員の皆さんとしてII倉登山へ登る。参加49名
8日 II倉夜中、再調査
11日 大和遊歩会会外、I倉金剛山へ登山、参加9名
13日 巨摩の松尾山登山、参加14名
14日 大和遊歩会例会、田原道最終回、IR吉野口へ車取、五條二見川、IR野田駅、参加18名
18日 I倉門駅、再調査。雪の印、大踏まで積雪。
20日 点のついで例会、I倉生駒山とII倉宮谷へ、参加14名
24日 III倉土原原、万三十七番野(?)、28日 III倉神下、同山平(司「十津川温泉」と山合登山同発心)へ、計298名、76%

日本最高位の温泉
(2400℃)
立山・室堂温泉
みくりが池温泉
〒9130 富山県五箇末広町
0764-410434

ハイキングにノースキーにノースキー
志賀原 石の湯ロッジ
バス 熊の湯線平尾下車
0269-3412421
東京本社・東京新宿区新富3-15(5F)
03-334-1021

白馬フランシエ
〒399-93
長野県北安曇郡白馬村いわたけ
0266-72-4452

白馬ファミリアベンション
〒399-93 長野県北安曇郡白馬村八幡野
0266-72-5351

山行計画

新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してある場合は会員以外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって出発の7日前までに到着するように休んで申し込んでください。「費用」のほかに参加者、近代その他の資料代費を頂くことがあります。
山行申し込み後参加できなくなった場合は急いで係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。
例の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点陣の保険に保険料(日額50円、夜間1日補いの場合は7日になり100円)を支出して頂きます。(ハエロ保険会社と契約)
傷害保険特約内容は次の通りです。
死亡・後遺障害保険金額 1000万円
入院保険金 5000円
通院保険金 2500円

保険の対象は集合時から解散時まで、事故があった場合は解散時までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。
①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを待参することと明記した山行 ②スキー使用の山行 ③氷岩氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 (※詳細は係まで)

(記入例)

(往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行
期日
住所 〒
電話番号
氏名
会員番号
(会員でない方は会員外と記入)
生年月日
緊急時の連絡先

返信用ハガキの宛て各欄にご自分の住所氏名を記入してください。

経歴

宮崎県小社峠(薩摩向き)
期日 5月1日(日)帰りの集合 鈴鹿市山本バス停9時
集合 鈴鹿市山本バス停9時
近畿西口由良から山本行きか持神社行き之三交バスに乗り換える。○マイカーの人は小岐須深谷山の家駐車場。時30分
コース
山本バス停 小岐須深谷山の家 大石橋 東海線 草一宮橋 小社峠 他ヶ谷 小岐須深谷山の家 石橋 小岐須深谷山の家 (解散)
費用 保険代50円(山本バス停までは各自で)
地図 昭文社「45個在所・峠ヶ岳」
係 ○高橋英夫 ○尾崎英夫
申込み 〒519-03 鈴鹿市大久保町2065番地まで
新緑のヤクキ会、東海線草一宮を登る。ヤヤコングコースです。小雨決行
フングメント月山(一般向き) 5月3~4日(案内は前15号)

春・秋 小グループ
白馬の自然案内します
白馬ファミリアベンション
〒399-93 長野県北安曇郡白馬村八幡野
0266-72-5351

八ヶ岳南北線沿線の中心地
59年秋新線完成全通記念
木の香のついで山行
○小里 小里
1泊2食付き 6000円
4月末、1日東開校
〒39-1102
長野市番字2720 小平勇夫
0266-72-1279

日本唯一の女と雄の山天険山
「百名山」の登山口
鶴村タチ子夫人コースもあり
温泉・名水の里
旅館 紀の国屋基八
1泊2食付 7,000円から
〒038-104
岐阜県白川村洞川
0747-4400009

九州の最南端、日本百名山
高の酒田に一番近い宿
屋久島安房山
屋久島グリーンホテル
〒89-143
鹿児島県熊毛郡久可安房
0997-41613021

一落玉取 15・00 落玉取 15・30
 1月15日 晴れ
 大又 16・30 40 45 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

大又 16・30 40 45 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

大又 16・30 40 45 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

大又 16・30 40 45 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

(参加者) 真田久子 千葉千枝子
 小林正幸 三木民子 鈴木徳子
 武田勝雄 山内マコ 内山弘子
 深谷正次 脇成 平城孝子
 美村三枝 山本 勉 伊藤順子
 岩崎邦夫 徐 仁淑 尾崎次郎
 柳谷 景 藤川良志 宮原康文
 竹中主税 前田孝季 前田景市
 ◎前田知康 ◎松永恵一 計25名
 2月13日 晴
 京都駅→バス→のりば9・10 (乗
 合) 9・20発 豊前池 10・15 35
 一 林道 11・55 林道 12・
 05 (乗合) 13・00 林道 13・
 25 沢ノ池 13・40 14・00 東京
 台口 山道 14・35 45 14・
 50 16・00 解散
 前々日から車で積雪30cmのコー
 スを歩く。雪景色の道は味わい深
 く冬の北山を堪能した。沢ノ池畔
 はひっそりとして、我々だけの世
 界だった。

前田政雄 湯浅宗男 吉原清夫
 吉井通子 日高嘉清 荒木文男
 北原文昭 岡田修美 山口ニキコ
 田川良子 磯田 勇 磯部むつ美
 中西信子 林 弘哉 倉田ミヅエ
 永田博美 前中 敏 山口恵美子
 中家弘治 金田晴美 小島フジ子
 木村ユリ 出口寛次 佐々木文江
 近藤孝子 榎野光枝 須崎かろ
 近藤泰正 清 信雄 須崎尚
 東原 薫 鈴木久子 江藤美夫
 熊木秀雄 上井忠孝子
 ◎村田俊俊 ◎西田 寛 計31名
 新ハイキングクラブ開会
 入会のご案内
 このページの山行例会を通じて
 正しい山歩きを、のびのび山歩
 ちを味わいませんか。リーダー
 達はすべて無償の奉仕で、各
 自で初符を買った代を払い、有
 料もすべてソリカンです。
 あなたも新ハイキングクラブ開
 会に入会してたのしい仲間にな
 りませんか。会費には就時「新ハ
 イキング」京都府内四の山(空閑山
 月島山)を御届けします。会員
 はこのページの山行例会に参加で
 きます。

入会金 500円(ハンジ代)
 年会費 2500円(送迎共)
 新ハイキングクラブ開会への入
 会申し込みはこの雑誌に掲載への振
 替用紙をご利用下さい。第何号か
 ら送本せよとご指示下さい。
 尚、定期購読を御希望される方
 も会員になつて頂きますと、毎号
 雑誌をお千円に減りますので便利
 です。
 ◎新入会員紹介(1750まで)
 尾野雄大 高橋英紀 坂本富男
 吉長雄三 石田邦和 下川三千子
 山本初江 西川俊男 石井智恵子
 興 一見 井村照司 宮安隆二郎
 田中鶴登 富田英男 富田真智子
 西上富美 藤岡健子 奥田英二郎
 吉村賢男 作里和夫 中島千恵子
 雄下末子 坂谷徳一 笹野正助
 鈴木孝子 熊木秀雄 寺崎誠之助
 丹保洋男 清 信雄 大島三貴子
 大東良一 井林良幸 井林美智子
 高松洋行 高松智子 田尻フミエ
 中上 昭 森田智子 川口八郎
 山田高博 森 田 朝 前 一 好江
 野井美明 小西秋雄 小西京子
 堀三和子 須方 力 北浦祐子
 人見眞子 下田伊在 京 昌 弘

豊野邦男 加藤昭三 加藤佳代子
 田中昌高 持本博章 松元勇二郎
 森井智子 井関俊光 有川徳子
 近藤孝子 西岡高晴 方山徳久
 山田一喜 西本善夫 外川健久
 小林賢司 篠原英明 篠原孝子
 遠辺洋明 川合一光 駒越清司
 網田眞弘 河津俊男 河津健子
 片岡良男 高島 輝 坂井 博
 村上佳雄 藤井智子 川西善子
 大沢文夫 米山昭明 倉田ミヅエ
 齊木一忠 柳 礼子 上田三枝子
 新谷英世 新谷早子 伊藤 のり
 松田 昇 藤原康行 戸田 繁
 橋本文明 松本朋久 中津吉五郎
 高橋博一 吉井敏子 吉村昭博
 清山矩行 和田良一 宮井未夫江
 津山英子 三野孝季 小宮山政治
 志保信枝 藤井隆夫 宮沼健彦
 原 隆高 津田昭彦
 ◎訂正とお詫び 15号(開巻) 26
 ページ上段欄外欄外中段1行目、
 2等三角点(316・00)の標
 高が正しい。は316・00(5)
 6・00)が正しい。
 15号(開巻) 64ページ上段1行
 目の草の山出し、嵐山冬景色は嵐
 山冬景色が正しい。(編集長)